

3月1日(日)清水公園武道場



栗山理紗子先輩とは構えている時から力が全然伝わってこなくて、流れで打ってくるので出が全然わからなかった・・・だから最初は遅れたり、焦ってはやく出すぎたりとなかなかできなかった・・・悔しかったのでもう一回「一本勝負」をしてもらった・・・そこでは落ち着いて出来るだけいつもの自分でやれた。ただ、どんなにノーガードで当たっても抜けても当たるのが面金になってしまい「一本！」にできなかった・・・栗山先輩に、「自分に有利で相手に不利な間合いを見つけてみて・・・」とアドバイスされた。

今回の間合いは「私の得意な間合い」だったがそれ以上に「栗山先輩が得意だった」。

今までは「間合い」でも「自分のこと」「しか考えていなかった」ので「相手」にとってはどうなのか、という発想はなかった・・・

「それを見つけるのは大変だけれど、できたらもっといい稽古ができると思う・・・」と言われた。

今日は「コテ摺り上げ面」が自然と出たので嬉しかった。

Aちゃんとは高校剣道部に入ってから初めて稽古をした・・・変わっていて当然だと思うけれど、想像以上に変わっていた・・・それでもやっぱり面は真ん中にくるので相面では全然決まらなかった。また、遅れて出てくる面がなくなったので、いつもそれで面をとっていたので難しくなっていた。

ただ、やり易さで言うと今のほうが簡単に打っていける感じだった・・・前はもっと打ってきてテンパずらされたし当たったら怖いと感じたけど今回は間合いが近くなるまでは打ってこなかったのも、Aちゃんの打ちをどうするかというよりも、どうやってガードを崩すかのほうに意識がいていた。

Aちゃんは出コテがうまいので大丈夫かな？と思ったけど・・・触られなかったのも自信にもつながったと思う。

前から光太郎先輩の「入り」は、他の人と比べて色がなくあの大きさと出足とスピードで面を奪っていく感じで凄いと思っていたけれど、今日は先生にポンポンと打たれて・・・応じられてしまうのを見てちょっとショックだった・・・、あんなに神経張り巡らせていても駒崎先生のゆっくりな面が当たっちゃうのは剣道をやっている人にしかわからないんだと思う・・・。

出稽古・・・清水公園体育館武道場



今日は、栗山姉弟先輩、K 姉弟、が稽古に来てくださった。

A ちゃんに会うのは1ヶ月振り、稽古となると2ヶ月以上振りだ。ビデオで見たときにはメンの出足や鋭さが増しているように見えていたので、楽しみだった・・・逆に、私も久しぶりにAちゃんや理紗子先輩に見られていると思うと、気が引き締まった。

先生との稽古では、初太刀が引いてしまっていた。中心を意識すると攻めのパターン、拍子が同じになってしまっていた。途中で躊躇してしまうと右足重心の構えになっては簡単に打たれてしまう、構えで中心は絶対に譲らないと守りながら足を使って…だんだん右手主動になってしまっているのを感じて構えからスッと力を抜くと、いいメンに出られた。コテメンに来られると居着いてしまうのを対応するようにしないと。

二回目は、だいぶ力が抜けて構えられていた。だから、構えているときにコテを打たれてしまう場面は減ったと思う。コテに勝つメンを打つ、メンを打ったときに足を上げないように打ったあとがスーッと伸びるように柔らかくを意識した。足は左足の引き付けをひとつの攻めとして使うと一拍子変えられるのを、スムーズに場面場面で使えたらまた幅が広がるなと感じていた。最後のメンは中心を攻めながら打っていたと思う。

理紗子先輩との稽古。理紗子先輩は構えが柔らかく感じるのに中心は強く、足の捌きがとても速い。

『松ちゃんも一本になるメンを持っているんだから、相手は打てないけれど自分では打てるって間合いを試合や稽古のなかから見つけるといいと思うよ。せっかく、間合いに厳しく稽古をしていて他の学校とは違うものをもっているんだからね。』

私が打てると思うところは理紗子先輩でも打てる場所だったので、打っていても合わせられてしまう。打ったあとに構え直したところから突くようにメンに出たところで一本取らせていただいた。

『強くなっているし、よくなっているよ。もう最後の大会が始まるこの時期に、基礎はもちろん応用を固めていかないとね。ここは負けないということ譲らないで。頑張ってね。』と最後に話していただいた。理紗子先輩がおっしゃる『譲らないで』という言葉は何か強いものを感じた。

先生と光太郎先輩の稽古。

先日来ていただいたときは光太郎先輩は構えがスツとして、ストーンとメンに出られていたので、今回は違う印象の稽古だった。思いっきりメンに出ていく出足がすごくて、ドウを返しても詰まってしまうメンが迫力があつた。でも、先輩が棒立ちになってしまう場面はあまり見たことがなかったので、先生が実際よりも遠く見えてしまっていて、打っていても面金に当たってしまうと迷いのようなものを思ったからなのかな・・・と思っていた。

理紗子先輩の稽古では、あのメンへの合わせか方「凄いな！」と思った。

足から攻めていってメンやコテに変化して、だからといってメンが遅れてしまうこともなく。構えの柔軟性から手首が自由に動いているからなのだろうな。

A ちゃんとの一本勝負では、構えたときに力が入っているというか、何か強いものを感じた・・・構えが少し変わったように見えるからか、攻めが強くなったからか、以前とは確かに進化していた。出ていっても合わせてしまう弱いところは出ていなくて。でも最後はメンに出てくるのが見えていたけれど、真っ直ぐ中心に来ていたのでメンには出れないなと、パッとコテに反応していた。

理紗子先輩にメンを打たせてもらってしまったのがすこし心残りだけれど、足捌きや手首の使い方を見て、私も実践していきたいなと思った。

学校の道場ではなく、このような場所・・・違う環境で稽古をするのは、新鮮で、その中でいつものように、いつも以上に心を保つのは楽しく感じました。

栗山光太郎先輩、斎藤先輩が来校されました。



始めに斎藤先輩との地稽古。

構えたときに構えが柔らかいのを中心にスツと竹刀がある。初太刀は中心にメンに出た。今、メン打ちや地稽古で『中心』ということ意識していた。打つ瞬間に右腕で打ってしまうのを、試していたときに落合にどうやって打っているのか聞いてみたことがあつた。あのゆっくり摺り足でやっていたメン打ちは“中心に竹刀を置きながら突くように攻めて、手首で振る”というのを意識していたと言っていました。そのメンを打とうと常に思っていた。

斎藤さんのメンは構えからメンに出るのが早くて突くように打ってくるので、何本かノー

ガードでもらった。左足の引き付けが早い…先生との稽古のときも摺り上げメンをもらっていなかったのは出足と左足の引き付けがあるからだなと思った。

間合いの攻防では左手を中心に意識した。最後のメンは右にずれてしまっていた。相手が出る拍子が掴めたのでそこで相手が出ようとするときに私も一緒にでる…そこで相手の動きが一瞬止まったように見えたときに出ていった。ここのメンも鋭く中心に出れたから先をとれたのだと思う。

光太郎先輩との地稽古。構えたときに届かない感じがしてしまった。出るタイミングは掴めている感じはしたけれど仕掛けメンが空振りしてしまって、出初なメンはスピードが違うし。打ったあとや引き技で先をとっていかうと思った。1度先輩がコテに出ようとして、コテを失敗したところがメンが目の前にあったのに、メンがしっかり打てなかった。そうゆう場面をとらないと一本決められない相手だと思うので足、構えを常に打てる、打つぞと言う体制にしていかなければと思った。

最後に打たれてしまったコテは私が打つ前にコテに出ようとしていて、そのままコテにくるとは思わなかった。メンに出ようとしたときに変化できるように…こうすると決めたことしかできないではまだまだだなと思った。

打ち込みのときには、光太郎先輩に『手ばかりが前に出ていて足が出てないからもっと足を前に出さないと。手は内側に絞って。』とアドバイスをいただいた。ツキがうまく決まらないのは足が出てないからだと思っても感じていて、基本うちでも頭にあったことだったけれど、違うことを意識するとそこが出来なくなってしまっていた。ひとつずつクリアして積み上げていきたい。

光太郎先輩が、『よくなっているよ。後悔が残らないように今、準備しないともったいないからね。自分でも素振りをしたり…最後だからね。』とおっしゃっていた。

あと何週間か稽古をしたらもう3年生なのだと思うとあっという間だな…。私達が入学したときの幸先輩たちの立場になるなんて正直、想像できない。最後のスパートが始まっているのだなと改めて感じました。

2月23日(月)

光太郎先輩、斎藤先輩がお見えになりました。



最初に光太郎先輩に懸りました。構え合うとやっぱり大きくて圧倒的でした。初太刀は先に打ちたいと思って仕掛け面を打とうとしましたが結果的に出頭になってしまいました。それでも地稽古全体的には今までで一番怖気ず果敢にいけました。身長が大きく間が遠いことも関係あると思いますがほとんどが空振りになりました。光太郎先輩が面を打って私が左右に避けずいたら崩れることなく前に出てきて凄かったです。

斎藤先輩と地稽古をするのは初めてでした。近い間合いで打ちにいつてしまったことが目立ちましたが自分のペースをもったままできたのでよかったです。引き技は全く出がわかりませんでした。

先生との地稽古で見るとすごくスムーズに面を打っているのが分かりました…そして、構えるのが早かったです…身構えて…が分かりました…。

光太郎先輩は正に堂々としてました。先生の突きからの胴で、突きのあとすぐ面を打っていて凄かったです。自分は、突きのあと面を打っても返し胴がくるから構えていたほうがいいと思っていたのでとても印象に残りました。

あと半年もないので振り上げとかを意識して最後の試合で後悔しないよう頑張る！

千葉県北部地区高校剣道選手権大会(参)

2015.1.25



去年のこの大会について他の人の試合は覚えていても自分の試合は内容も相手も記憶にないのであっさり終わってしまったんだと思う。

自分を常に持って最後までやり抜こうと思った。以前、阿部先輩が言っていたように気持ちだけでも「無双一！」

みたいな強気でいった。

トーナメント表を見ると一回戦目の相手よりも何よりも私の名前の上に A ちゃんの名前が！…試合場で A ちゃんに会うこと自体も新鮮だというのに…朝、先生が言っていた通りになっていて…お互い勝ち進めばあたる可能性がでてきた。

tonn ちゃんの試合は、相手がすごく押しが強かったがうまく捌けていたとおもう。面に旗が上がってしまっていたけれど左に出たコテはタイミングがよく、惜しかった!!□本目の相面は出ちゃいけないところででてしまっていた…。

本人もダメだということはわかっているけれどどうしてもつられて出て行ってしまう…わたしも以前そういう負け方はしているのでやっぱり自分の中の拍子を持っていないとダメだなとおもった…。

私の一回戦はおおたかの Y さん。初太刀に真っ直ぐでれて一本とれた。これはまた同じように面に出れば大丈夫だなと思ったけど、その後面が真っ直ぐいかず、なかなか決まらない…焦ってしまった…。

二回戦目は A ちゃんが負け

さんがでてきた。気持ちは前に前にしているつもりだが自然と抜き技が多くなってしまった。ただ抜くことができた分相手をちゃんと見れていたとおもう。また、初めて「引き技」がきまって嬉しかった。「引き技」って一本になるものなんだ～という感じ。二回戦目で勝った時が一番充実感に満たされていたとおもう。自分のほうに旗が上がった時の感覚を忘れかけていたので、こんなに嬉しいものだったんだと思い出した。

三回戦ではこれもびっくり。学館浦安かとおもったら八千代の Y さんがでてきた。自分の中ではここで H さんと試合をすることをまず目標にしていたのでちょっと面喰らった…。面を打ってもよけられる…大きく振りかぶっても当たらない…面をみせてコテをうっても決まらない…コ～メもだめ…完全に最後の方は発想が止まった…ただ今まではグダグダのまま延長戦にいくと、「もうやめたい…」とか集中力が切れてしまって打たれることが多かったが、何故か今回は「絶対に負けたくない！」という気持ちが強くて最後の最後まで粘れた。

4 回戦は K さん。中学の頃から知っていたけれどあたってのは初めてだった…何を考えているのか本当に分からなかった。最後の面は、「当たってない～」と思ったけどビデオでみたら打たれているように私も見えたので仕方ないなとおもった…。

先生が

「剣道は格好良くなきゃいけない！」

「剣道は、魅せる競技だ！」

と云うことがある…確かに…。

「相手の出を見ちゃった感じかな…」

matum は普段、上段を相手に練習していないのにあんな風にできて凄かった！…初太刀でコテを打たれてもすぐに 2 本取り返せる切り替えができていた。上段相手にわたしはあそこまでできないと思う。

4 回戦までいけたのは初めてだった。また、毎朝、早くにご飯をつくって送ってくれる親に剣道を見せれてよかった…。

「あなたは、構えて動かないで何をやっているの…？ 催眠術でもかけているの…？」

って云われた…「剣道を知らないお母さんにも分かって貰えるんだから良かったね…」と先生が言った…。

千葉県北部地区高校剣道選手権大会(弐)

2015.1.25



アップを見ていてAちゃんも随分馴染んでるように感じました。

それでも他の選手とは違って遠くからずとんと面を打つ姿を見て、私の知っているAちゃんもそこにいるんだなと思いました。

十五試合目、相手はアップで見ている時から近くまで入ってくるなとは思っていましたが実際やってみるとかなり近くてやりづらかったです。

この距離からじゃ返しても間に合わない、入られる前に先に仕掛けようと・・・体に変に力が入ってまともな打ちができませんでした・・・最近は力み過ぎずに真直ぐに面が打っている感触があったので思うようにいなくてショックでした・・・二本目も焦って出ていってしまい面を取られました・・・唯一まともに打てたのが二ノ太刀の胴だけで自分が思っていた以上に体が動きませんでした・・・出小手を打つときはタイミング良く捌けていたかなと思います。

Aちゃんの試合をちゃんと見るのはこれが初めてでした・・・思った以上に素直に打っていった場面が多くてちょっと意外でした・・・

先生が「試合は上手くはない・・・」

と言っていたのがなんとなくわかりました。

私としてはAちゃんとOCHIの試合を楽しみにしていたので残念でした・・・Tonnちゃんの試合、我孫子の選手相手に大健闘していました・・・いつものように試合をしていて相手のペースに飲まれることなく最後までやり通しまし・・・。

ビデオを撮るために二階に上がっていた時、ふとI0君の声が聞こえて・・・そちらの方を見ると

「面あり！」

と旗が上がっていたのには驚きました・・・。

Matumの三回戦・・・上段の選手が相手でした。

初太刀を取られてしまい

「後がない！」

と思っていたのもつかの間、あの真っ直ぐで鋭い面を打ってあっという間に二本取り返し

ていました・・・初っ端から取られていたとき私は「やばい！」と思ってしまったけれど
そうってしまう時点で既にダメなんだろうなと思いました。

Matum はどんなことを考えていたのかが気になります・・・。

Ochi の試合ではあの鋭い面を何本も打ってました・・・一回戦の時は、かなり逸れてしま
ったりしていたけれど・・・二回戦以降の試合ではほとんど逸れた面は打っていなかった
と思いま・・・。相手が「返し胴」をしてこようとも

「だからどうした！」

と言わんばかりの面は清々しくて格好よかったです！

千葉県北部地区高校剣道選手権大会

2015.1.25



この寒い時期の個人戦・・・先生は大会設立に反対したと云う・・・しかし、設立されたのなら
出場しなければならない・・・故・篠田正六範士八段が県北部地区高校剣道のレベル向上を願
って強豪校と剣を交える機会を・・・と云って設立された大会・・・秋に松戸地区開催、春に柏
地区開催・・・我孫子地区開催も作ろうという話・・・第一回は女子1～3位、男子3位を獲
得・・・風邪引き怪我持ちは出場させないために4人で参加したそうな・・・そして、もう一度
優勝がある・・・部員3人初心者1名という時代に「春の遠征」を止めようと思って、唯一、
試合ができる主将に「優勝したら継続、負けたら止め！」と云って参加したら「勝ちやっ
た！」・・・「メンしか打っちゃいけない・・・『ヤァー！』って掛け声を出し続けていくこと・・・」
なんてことまで条件付けて・・・なんていうのもあったな・・・アハハハ・・・。

「教員生活最終章に上位を伺える機会を持てる幸せ・・・。」

試合前日に先生が師範室で話した・・・いろいろな思いを感じた・・・。

「稽古は、いいな・・・支度しなさい・・・」

「明日は、白道着、白袴にしよう！」

大会当日、私は正直、組合せ、自分の状態から勝てる大会だと自信が湧いていた・・・そ
して楽しみにしていた・・・。

緒戦、二回戦目の方が緊張していたかもしれない。間合いが近くなったら・・・避けられ
てしまったら・・・そうなってしまっても、上手く抜けられるだろうとは思っていたが、
今回は相手も出てきてくれて、出頭を捉えられた。

Rinn ちゃんも、声も出ていて足も出ていた・・・手数も多く、動き負けていない！二の太刀がだいぶスムーズに出ている・・・試合前は緊張していたようだが、見ていてそうは感じさせない試合だった。

Ochi の緒戦がメンのセールで、大丈夫かな・・・？と思ったが、二本決め二試合目はあの拍子の引きメンも、バコンと決まって、メン抜きメンもいつもの技でドタバタせずに冷静だったので、『普通にやれているな』と思っていた。

Rinn ちゃんは引きメンが決まると大喜び！

遠くから見ていると構えがやっぱりいい！袴も似合っている。

私の三回戦目、松陰戦は初太刀にコテを取られてしまって、内心焦っていた。そのあとはコテやメンは見切って・・・メンに来る刃筋はスローで見たのでそこを狙っ・・・ツキから・・・と思ったが、相手は何でも飛び出して来そうだったので、メンで向い打とうとした・・・1本取り返したときは、もう乗っていたのでよく覚えていない・・・相手は多分メンメンと一本目が空振りしたのでもう一本！というところを打ったのだと思う。

その場で、パッと対応、対応して迷うことはなく決めるところは決められた。

4回戦・・・は一瞬相手の拍子がパッと変わったというか、私が居着いてしまったところで対応出来なかった・・・。

Ochi の八千代戦・・・相手のドウを返す素振りにも反応していたり、そこからコテへ変化したり。

『4回戦目までなんて初めて。』

と Ochi は言っていた・・・あのストーンというメンは決まったときには少し崩れていて・・・となっていたが、周りの視線を集める迫力があつた。

最後のメンは Ochi の崩れかたが打たれたように見えてしまったのが、惜しかったなあ・・・。

あと一回は勝ちたかった！勝てると私も思っていた。

足りないところがよく現れる、どこまで通用するのが分かるのがこの機会・・・あとひとつ、あとひとつ、と乗り越えれば確実に進めると思っているのも、また本番には課題が消化不良にならないようにしたい。

「稽古初め」(2日目)

2015.1.5



素振りでは止める。手と足を合わせるを意識しました。力みすぎるとピタッと止まらずぶれてしまう、最後にキュッとしめるようにするを意識して素振りをしました。

基本稽古は手と足を合わせる、を意識して右足を大きくだして面を打っていきました。地稽古では一周目初太刀で面が入りました。右足がだせたのがよかったんだと思います。振り下ろすときもスピードが落ちませんでした。

二周目のときにまがって動いているのは逃げてしまっているんだと思います。まだ、抜けなくちゃという思いが強くなってしまっているんだと思いました。体が逃げつつ打ちにいつてしまっているの、基本稽古のときから気をつけたいです。

稽古が終わり、ochi 先輩の構えの写真を見ました。安定していて、スッとした感じが素敵に…カッコいいです…桜木先生の本の表紙の構えに似ているように感じました…恐れ多いですが…。

先生と阿部先輩が話していた前任校の昼休みの光景…私の中学校がそんな感じでした…スカートの丈とか髪の毛染めてるとかピアスしてる生徒がいて…よく廊下から怒鳴り声が聞こえてきました。

先輩と先生がいた世界と今がそんなに違うとは…また、保育園、小中学校、にも体験実習に飛び込んでいく、そこで絶対やってやる！と行動的なのが「凄いな」と思いました。また、

最終目的は大学じゃなくて就職…社会人だよな…と思いました。

そして、tonn 先輩が阿部先輩同期の H さんにそっくり…私が T さんの豪快さに似ている…話で…新人戦の時、最初は上がっていたけれど、先輩達の頼もしさに吹っ切れました…そのあとは、「できることだ！」と試合をしました。

中学生のときは先輩がおらず、女子も後輩が一人だけだったので、先輩達が落ち着いてどっしり構えていてくださったので安心することができました…真相はですね…。

平成 27 年「稽古初」

2015.1.4



初夢では、一富士二鷹三茄子なんて、縁起のいい夢は見られなかったけれど、剣道の夢を見た気がします。

「稽古初」の朝、電車に乗っているときには、窓から綺麗な富士山が見えました。久しぶりの、部員の顔を見ると何か緊張してしまいます。一週間会わないなんてあまりないからだろう…。

冒頭、暮れの合宿のビデオを見たと言う話から『ochi の構えがいい、すごいな…』という言葉は、私がダメなんだという気持ちというより、客観的に ochi のすごいメンが出ていることが嬉しいな…と思っていました。でも、『それぞれの個性、オリジナリティだから』というのは、こころではほっとした。構えから伸びてしまうのも、意識すれば直ると実感したので、少しずつ開く癖も直す。

地稽古…栗山先輩が一番にかかった。以前に、間合いの攻防から打ちにいけないことを『もっと仕掛けて打ってきたほうがいい』とアドバイスをいただいたので、今回はとにかく栗山先輩のメンを打とうと懸かった。メンを打ちたいとなるといつも、打つ前が力が入って沈むのでスラッと立った。そこから、メンを 3 本打った。向ヅキで止められてしまったけれど、栗山先輩から向ヅキをされたのは初めてで、そうしないといけないほどのメンが出たことが良かった。最後は出頭メンの拍子で出られた。仕掛けようとして、近間になってしまって、それで、相手の間合いになってしまって…の展開になる前に、遠間から中心陣地は常にとって出頭にできるようにした。攻めよう攻めようとしてしまうとかみで逆に沈んでしまっていたのだと思う。『強くなったね〜。機会もいいし打ちもいいけれど、すこし捉えるところが近くても打ちになることがあるから、そこだけ。』とアドバイスをしていた。

加納先生は、いつもあっさりと返されてしまうことが多かったのですが、今日は絡むことができたと思う。コテ、小手メンに加納先生が来るのに小手メンに出れたもの、メンに合わせて出る。その駆け引きもただメンに合わせて出るより、出頭にでる。攻防から、ひとつ絡むと次が見えてきて前に前に、その場には止まらないように…とできた。

年始め…日本の風習で節目節目を大切にする。

最初の稽古で、先生から一本取れなかったのが、ひとつ残ってしまったけれど懸かることができたのはスタートは良かったと思う。「初日」だから「特別」…だけれども、それだけではなくて、毎日が一度にしかない、大切なものだと思う。『6 月までやれる』ように、長生きできるよう『終わったあとから、後悔しないように』と栗山先輩もおっしゃっていたように、今年もやっていきたい。

終礼後、栗山先輩が「暖かいジュースを…」と買い出しに自販機に付いて行きました…「即決！即決！」とおっしゃっていました…仕事でも剣道でもその場で瞬間に判断をして行動することが大事なんだと…。

平成 26 年「稽古納め」

2014.12.29



ストーブに当たりながら先生方の話を伺った・・・超一流の先生方の超越した気力や発想の話だった・・・試合へ向けての取り組みの一場面一場面を体験から話されて解釈を紹介されていた・・・

HIRO 君やご両親も来場して「摺り足のメン」からスタート・・・。

先輩同士も基本打ちをしながら体を温めて・・・地稽古！

ひろこ先輩からかかった。

今回はとても出コテをたくさん打たれた。いつもはあんなに応じられないのになあ。後半からはなんとかもちなおして、落ち着いてできたけどなんで序盤ああいうふうになったかわからない。

KAZU 先輩や SYUNN 先輩には小さい面がほとんどあたらなかったので大きく面にいったら当たった。けど、またやったらコテを打たれたので、使う機会っていうのはちゃんと見極めないとダメだなと思った・・・。

「やっていて楽しい・・・きっと他の先生方から『もっと・・・』とか云われるだろうけど、そのままでいいと思うよ・・・」

前回、私たちのようなレベルとやったことのない KAZU 先輩は稽古の仕方に戸惑っていたようにみえたけれど・・・嬉しい！一言だった・・・。

駒崎先生にはなんとなく久しぶりに懸った気がした・・・何故か途中で集中力が切れかかってしまって・・・そこからまた立て直すのが大変だった。

MONAMI 先輩は赤ちゃんを連れてきていた・・・稽古が終わると先生は自分で礼をして珍しく挨拶もしないで・・・子供の顔を見に師範室へ入っていった・・・先生と話す MONAMI 先輩は、はる先輩たちから話はちょっときいていたが、ほんとうにさっぱりした人だった・・・先生は「天才、天才・・・」と云っていた・・・とても幸せそうでわたしたちも分けてもらった気がする・・・。

2014 年・・・何回、稽古したか分からないけど、「あっ」という間・・・って感じるのできっと夢中でやっていたんだと思う。

あと半年なので無駄な日がないように過ごしたい！

「菜の花剣道錬成会」(第二日目)

2014.12.27



『強さをもって！強さをもっているのだから、それを出さないと…。』

朝稽古は、上の体育館を覗いて、下に行くと雰囲気は下の方が先生が選ぶのではないかと思ひ、基本稽古をしながら待ってしまった・・・観ることも撮ることも出来なかった・・・。
試合・・・初戦は空回りしてしまっていた。

メンに飛んでくる相手に合わせて乗られてしまった。そのあとは、相手の入りに合わせて入ったり、相手のリズムに入り込んでメンメンと出て1本とったり、3連打の3本目で、拍子をずらして1本になったりした。流れをつくれる、相手と噛み合うことができた。

自分で「いけるかな・・・？」と思う相手には単純に、上から、表から入ってメンに、入ってくるところをメンに出！。

先生がおっしゃっていたように、『一生懸命』になってしまった。

『賢くやろう』と『考える』のが『邪念』なのだと思う。「こうやろうとか、こうきたらこうしよう・・・」と考えすぎているのが「邪」で、その場その場でパッと対応するところまで、気が上がっていつていなかった・・・。

試合の始めかたで、主導権が握れるかが、駒崎先生も中澤先生も、おっしゃっていたように、『最初が大事、初太刀で主導権を握った』ということを改めて感じた。

最後のリーグの学館浦安戦は、相手が弱気ではないけれど、どこか下がる気があるような気がした・・・最後の一本は機会はギリギリでいけると思ってしまったが、竹刀が外れてしまっていた・・・あそこは捌いて展開を持っていければよかった・・・その前の場面が打っていたので・・・。

OCHI のラスト 3 試合・・・学館浦安戦のメンの凄さ・・・相手は何度も打っても後ろに下がるしかないなんて・・・境戦もコテドウを打ったところがすごく面白かった。そのあとにコテドウのことを聞いてみたら『空いてたから』と、集中していてその空いているところが見えていて、パッと対応できたのだな…。OCHI はメン打ちでも摺り足でやったり、抜けもゆっくり練習していたり・・・だけど、試合ではすごいメンが出る。不思議だなと、いつも思う・・・。

OCHI にはなれないし、考えていることも分からないかもしれないけれど、その感覚は話を聞いたりして、わたしも吸収したい。

最後の試合で 2 本負けをしたこと・・・勝った相手に負けたこと・・・勝てると思う相手に対応しきれないこと・・・悔しい・・・悔しがるために錬成会に来た訳じゃないし、強そうに見える学

校も、『ああ強そうだな』と気負けしていたわけじゃなかった・・・審判をしていても、分かっていて。

上手くいかないと、そこから邪念が起こって崩れていってしまっていた。その入りから勝らないと。

今日は珍しく帰りに先生に怒られた…

「構えを褒められに来たわけじゃない！」

考え方の根本から、変えなきゃ！

「菜の花剣道錬成会」(第一日目)

2014.12.26



初戦から体もかたくならず、打ちにいけた。新人戦の時はガチガチになっていたのも、やっぱり雰囲気の違いかなと思う。

去年の合宿では出なかった返し胴が出たり変化したりしたので自分でも変わったなと思えた。また、去年は一度も勝てなかったが今年一度チームで 2-1 で勝てたのでとても嬉しかった。体捌きも自然にできていたと思う。ただ、残心が短かったなとも思った。面を打って抜けて振り返ってもすぐ相手との距離が近かった。

となりで我孫子高校さんがやっているのを見るとすごく勝っていて、地稽古では絡むのになんで試合になるとこんなにも差が出てしまうんだろうと思った。見ていると我孫子の子たちは自分のリズムをちゃんともっていた。

出コテは打たれなかったけど、返し胴を打たれた。入り方をもっと工夫すればいいのかな。緑高校の N さんを加えて五人で今年はやった。話してみるととても陽気な子で話しやすいかった。一年生で女の子 1 人でやっているそうだ。明日も同じチームでやっていくのでよかった。

ビデオで見ていると先に入られてしまっているのが近間での勝負になってしまっていた。また、打った後に竹刀の剣先も気になった。旗があがった回数は少なかったがちゃんといいところを打っていたのでよかったと思う。市船では初太刀当たったのに一本にできなかったのは残念。チャンスが常にあるわけではないのでちゃんと決め切りたい。

中澤先生が来てくれました！

2014.12.23



『技の前のづくり、決めを意識して。』ということと、今、自分で意識している構えと足の捌きを出して、稽古を出きるように…ということを考えていた。

私が学校についた頃、男子は基本打ちから、地稽古をお願いするところだった。I くん、K くと中澤先生は、一緒に出て…一步入ってコテに出て…そこを川村くん たちも合わせて入って…。最後はいいメンに出れていた。4月から初めて8ヶ月かあと、コツコツやってきたことが繋がっているのがよく目に見えたような気がする。

11時から基本練習。摺り足のメンを始めたときに『初めの1本を大切に。当てようとかそういうことを考えると、変なところに力が入ったりするから。もし、上手くいかなかったら回るときに、次はこうしようっていちいち意識して、ひとつ上のとこにいけるよにね。』と一言いただいた。私も、構えの力を抜いて両手で…というのを意識すると、切り返しも楽にできて、さらにスロークイックが出来ていた感覚が掴めた。

メン打ち、メン技では、1本1本気を切らないで、“決め”を意識した。竹刀のふりも力が抜けて、決まっていたな。メンに対して、コテに対して…の練習も切らずに、失敗しても次は決める！決めて上の段階…の繰り返し。『男子には途中で声をかけたんだけど、先に声を出して後からああすれば良かったと後悔しないように。一本打った後振り返ったときに次の一本にいける体勢か、ということをつたったら次からは変わったんだけどね…でも、女子はそれが体現出来ていて。先生がいなくてもこんなに出来るんだって。あれは何をしようとしているのだろうか、見てると引き込まれるんだよね。』

“引き込まれる”とおっしゃっていただいたのはとても嬉しい。

地稽古。中澤先生は細かく表裏から拍子を捉えようとされていたので、私は足で、左足の引き付けで攻めていくというのをやってみた。それだけでも3俵らしいの攻めになって打つ機会を作れた。表裏からの攻めの流れからコテに出られてしまうなと思ったときには、表から攻めて裏に打ちに行く、相手の出端、この間合いになったら打ちにいかうと狙った。中澤先生は私のその攻めかたについて“Matumはストーンと打つよね、どっちかというとな私は昔、そういうタイプだったかもしれない。Ochiはパッとその場から打てる。これは、私の苦手なタイプかもしれないね。それに対してまっすぐにいくか、ドウに返すか…。っ

て。”とおっしゃっていた。今日だけでも、いろいろな攻め、打つ機会を見出すことができたと思う。

最後の挨拶では、私達の先日の試合を見て、中澤先生の試合に生きたことがあったとおっしゃってくれた。“Ochi のメンを打つ機会を作るためにひたすら探る姿勢、Tonn の一緒に出ていこうという姿勢、私の受け止めてから技を出す展開になってしまったときそこからメンにいく展開へのもって行き方。そういうのをもう少し自分の試合でも出していければ良かったのかな。”と、とても自信になる言葉をいただいた。

私達の試合、稽古から、自身の試合に生かせると言ってくださると客観的に自分達を見ることができます。稽古が終わると、クリスマスの話をしたり、合宿の話をしたり…。中澤先生のお話を聞くと、自分のなかを整理できたり、ほんとに安心できたり。ありがたかったです。望洋も“強そうな高校”の雰囲気のにまれないで、自分達のペースで自分たちのやっていることが出せたらいいと思う。

第 47 回千葉県高等学校新人剣道大会

二回戦 小金（代）1-1 我孫子東

三回戦 1-4 東京学館浦安



先鋒戦：立ち上がりに相手選手がコテに飛び込んでくるのを交わして引きメンを放つ…次に出コテが Hit！



中盤戦：メンの相打ちになるが中心陣地は取れている！



中堅戦：相手の速攻メンに擦り上げメンで応える！近間を嫌って退って出る時を乗られてメンを先取されると二本目から猛然と攻勢に出て引き技の後に詰めてきたところをメンで繰り返す！そして、「勝負！」打ち合いになった後から返しドウに変化して強豪校から「1勝！」自身この日「三勝目」を上げる！



副将戦：1（2）－2（5）での副将戦・・・「1本勝ち」に持ち込めば大将戦に生き残る！中心陣地を守りながら応じ技で生き延びて4分・・・延長！「勝負技・返しドウ！」・・・ブロックされてしまった・・・最後は、歩み足のコテを狙ったがコテに仕留められてしまった・・・。

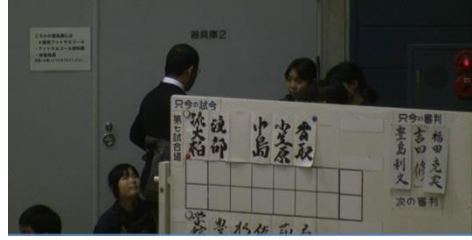


大将戦：この試合は「思いっきり出よう！」と決めていた・・・初太刀のメンから体が出た・・・近間の攻防で抜き気味にメンを浴びる！「絶対に1本取る！」とばかりに打ち込む！ほんの僅か短い！機会は盗めている！



長い審判合議があつて・・・（お互いが自覚ない反則・・・？）先生が私の名を呼ぶ・・・人差し指を一時頭上に乗せている・・・「メンで勝負だ！」「もちろん！」

合議解除の後、反則は双方なし・・・「はじめ！」の声にメンに仕掛ける！「返しドウ」が来る・・・「！」



礼式：畳の上に竹刀袋が一袋・・・「お前じゃない？」と先生が指す・・・笑いながらも一旦顔を引き締め「一礼」をして引き上げる・・・試合後、先生が珍しく試合場で話をした・・・「よく、頑張ったなあ・・・もうちょっとで大将戦だよ・・・みんな、よく踏ん張ったし、思いっきりやったから・・・いいんだよ！」

ロビーで出会った家族に「強くなったでしょう！」と自分から声を掛けている・・・。

生徒レポート

今日はついに女子の新人戦、新しいチームでの初めての試合でした。

一年ぶりの船橋アリーナ・・・、

「去年の自分と比べてどれだけ変わったのだろうか？」

それを示せばいいなと思いました。

竹刀計量で高瀬先生がチェックをしていたので挨拶しようと思ってその列に並びました・・・Ochi が声を掛けてもらっていました・・・開会式後に見かけた習志野高校の白の道着姿が格好良かったです・・・。

試合まで時間があったので観客席の方であまり緊張しすぎないように時々談笑をしながら他の試合を眺めて三試合目が始まった頃に試合会場の方に向かいました。やっぱり試合会場は観客席の方とは雰囲気違って自然と気が引き締まりました。隣の会場では我孫子高校が試合をしていて相手を圧倒していました。私たちの一試合目の相手は我孫子東高校、向こうの人数もこっちと同じで四人、先生が

「これで言い訳できなくなっちゃったね・・・」

って笑っていました。

11 時過ぎ・・・私たちの一試合目に入ります（先生の言ったとおり 11 時過ぎ！）

先鋒の Rinn ちゃん、いつもと同じ風に声を出して打っていました。相手が反応しきれていない場面も何回もありましたが・・・相面でスピード負けしてしまいましたが普段の力を出せているように見えました。

中堅の Mat t u はいつもの思い通りのいい打ちがなかなか出ていなくて苦戦しているように見え・・・らしくないという印象が強かったです。

副将戦・・・「無理して打たない！落ち着いて捌いていく」よう意識していましたが緊張で

体が固くなってしまいました・・・それでも意外に落ち着いていたところもあって鏝競り合いで反則を取られても慌てることもなく変に意識することはありませんでした。

延長に入ってから一本目、返し胴をしっかりと決めたかったです・・・引き分け。

大将の落合、初太刀からコテの連打をしたり、相手が返しきれない面を何本か打っていましたが・・・間合いを詰められるのを嫌がっていて危ない場面もあります・・・結局、引き分けてしまいました。

1対1による代表者戦に・・・、先生は直ぐに Mat tu に合図を送ってからコート主任に「中堅の松本で・・・」

Mat tu は

「待ってました！」

とばかりに面をつけました。

相手は大将・・・、「始め！」と言われた瞬間に

「メン！！」

・・・相手の抜き胴など、ものともせずには試合は終わりました。

先生は、この試合代表戦を含め一度も拍手も指示もなく・・・代表戦の準備の最中に引き分けに終わった大将の Ochi に間合いの取り方を話していたくらいです・・・それは、次の試合に備えているかのようにでしたが・・・試合終了後は済んだ試合には何も触れず・・・この後の試合を私たちと一緒に観ていました

(学館浦安と大多喜の試合で、これで勝った方と次の試合をすることになります。)

次鋒戦のあたりで先生が

「随分と派手な試合をやっているが・・・観ておくべきところは・・・この三点ぐらいでいい！」

と具体的にアドバイスがありました。

勝敗が決したあたりで先生が荷物の場所を移動するように指示されました・・・私たちの場所と学館浦安さんの位置が被っているからでしょう・・・(本当は、私たちが最初にそこにいたんですけどね・・・)

私の相手は思いっきり間合いを詰めてきて面を打つという印象が強かったです・・・相手のメンは結構早そうだな、あれだけ間合いを詰められたら返し胴は打てないか・・・、相手が詰めてくる前に逆に攻めるべきだろうか・・・いろいろと考えていました・・・。

試合の直前になって先生が「君たちの普段は負けてないからね・・・！」と言っていて、周囲では、習志野、我孫子、安房高校さんが戦っています・・・自分達の相手も学館浦安高校・・・何の不足ありません！

「ありのままの自分でいこう！」

と思え吹っ切れました。

先鋒戦、Rinn ちゃんの声が先程よりも大きく聞こえました。

傍で先生が「コテ、バックシ！打ってるよ・・・」って笑っているのが聞こえました。

メンも思いっきり打ってる Rinn ちゃんとても頼もしかったです。

中堅の Mattu・・・、相手の技を見極め機会を捉えて返したり、相面を先取されても怯むことなくメンを繰り出して取り返したり、思いっきりの中に冷静さがあって Mattu らしいなと思いました。

副将戦・・・、一回戦なんかよりも全然声が出ていたし気持ちも入っていました。

外から見ていて早いなと警戒していた面もこうして対峙してみる・・・、Mattu や Ochi のメンの方がよっぽど厄介で怖いと感じました。大多喜高校の選手は荻原さんが入ってくると間合いを取るため大きく下がったりしていましたが、自分は

「下がるもんか！」

とっていました。

空ぶることが何度もあったり、延長にまで持ち込んだのにコテにいつちゃって最後は取られてしまいましたが・・・気持ちだけは途切れずにできたと思います。

大将戦の Ochi・・・、攻めて攻めてのメン！（ノー・ガード・メン！が・・・相手が仰け反って避けるしかない・・・）

Ochi の良さが出ていたと思います・・・合議の後に打ち込んだメンはものの見事に返されてしまいましたが、「得意技を返されちゃ仕方ないかな・・・」と心の中はある意味スッキリしました。

この試合の先生は「試合を楽しんでいる！」って感じ・・・拍手する！喋る！声を掛ける！笑う！そして試合の後、

「頑張ったな！・・・奮闘したよ・・・なっ！」

と言われて素直にうなずけるくらいに納得のいく試合ができたと思います。

Ochi には

「見え見えのサイン！見られちゃったかな・・・？思いっきり出たんだ・・・今は、あれでいい！」

中澤先生には

「タイミングは捉えられていたから、後はひたすら練習をしていって技を磨いていくこと」と言われました。

Ochi には「先生が試合しているみたい・・・そっくり！」

修学旅行から帰ってきた頃にいい稽古ができるようになっていたのに、試合直前になってまた気持ちが入らず声が出なくなっていて・・・習志野高校でも昨日の富勢でもいい稽古ができず・・・正直なところ焦っているところがありました・・・なので、今日はしっかり声で気持ちを出し切れることができて良かったと安心している部分もあり、また久しぶりにスッキリした気持ちで終わることができました。

今日、初めて履いた「小金」の刺繍入り袴に見合った試合ができていたと思います。

前までだったら「学館浦安」って・・・「見た目からして強そうだし・・・凄い技を沢山打ってきて怖いし・・・っ」

て気持ちが引けていて試合前から逃げの体制になっていたんだと思います・・・でも今回はそんなこと全然思うこともなくて・・・技術面はともかく・・・精神面ですごく変わったのだなと実感できました・・・去年との違いもしっかり示すことができるのではないかと思います。

先生は「朝稽古 30 分、夕稽古も 60 分から 90 分、基本稽古と地稽古中心の日々・・・ドングリの学校に辛抱して勝ち、強豪校に挑み奮闘できたのだから十分だ！」と話された。

新人大会前日



小池先生が七段に昇段したと聞いて「お祝い稽古」に富勢中に行くことになった。初参加の凜ちゃんは緊張していて・・・それを黒澤さんが小池先生の面白い話をして和ませてくれていた。

到着して身支度を整えると

「UP してください！」

と小池先生から云われた・・・こんのことは初めてなので驚くと同時に先生も

「うちは UP しないからなあ・・・」と苦笑してから「よし、切返し！」と相成りました。

高木兄弟を加えて一緒に切り返し、面打ち、組太刀をやった。

そのあとは中学生の元立ちにたって一本稽古をした。

打たせるにしても相手の得意なものとか狙っているものに打たれたいし・・・でも、そのためには相手の気持ちを分らないとだめだから・・・難しかった。

自分の中でも真っ直ぐ前に出ことは意識してやった・・・テンポを変えてきたりいい機会に打ってきたら打たれるけど、自分でも無意識に手が上がった時にコテを打たれたり、応じられた。また、こういう時は打っていけないんだとか危ない場面とかあってこっちが教えられたこともたくさんあった。

中澤先生や栗山先輩たちが小金にわざわざ来て稽古してくれるのはもしかしたらこれと同じことなのかなと思った。

地稽古では小池先生に懸りにいった。

最初はよかったけどだんだんペースをとられていってしまった・・・でも、しっかり一本一本打ちきれたと思う。面返し面を打たれたので次返されそうになったのをまた返した。そしたら今度は返し胴を打たれたのでわたしも少しずつ変化しないといけないなと思った。お世話になった神田先生にもかかりにいった・・・前よりも動きが随分見えて自分でもびっくりした・・・連続技も出たりよかったと思う・・・神田先生にも大越さんのお母さんにも

「すごく、うまくなっていてびっくりした」って何度も言ってくれて嬉しかった。

(逆に以前どんな剣道だったか気になるところもあるけど・・・。)

小池先生と駒崎先生の稽古が始まる・・・出ゴテや摺りあげメンに来るも、変わらずにメンにいつている・・・試合では常にメンを狙ってそこから変化する・・・見ていて基本の心構え・・・。

『機会をとらえる力が一番大事・・・小技より、大技!』

試合に向けて、常にメンを狙うという姿勢を再確認できた・・・元立ちの難しさ、そこから「一眼二足三丹四力」を学ぶ!

朝から、緊張のようなハイのような試合前によくやる気持ちになっていた。自分の役割、自分のなかで整理して明日に挑みたい!・・・小池先生の最後の話でもあったように

「どんな相手でも怖気づに!」

「自分を出して!」

新人大会二日前



「明日、富勢中に行くけどどうする？」

「今日は、僕とやるか？」

で 4 時にジョグを始め…素振りをして試合練習開始です。順番は先鋒から順次行くようにしました。

もちろん、ガチンコで先生に勝てるわけではありませんが先生がその雰囲気を作ってくれます…！

先鋒、副将は二本取るまでで中堅、大将は三本勝負です！

無理矢理数値化すると 3-1 で先生の勝ちです…しかし、気合い負けせずに良い感じで終了して切返し、打ち込み、組立ち、引き技とすすんで礼式に入ると…

「キンコン♪カンコン♫」と 5 時のチャイムが鳴って…まるで計ったかのように…です！

四人での参加するハンディを払拭して前向きになるように調整出来ています！

新人大会三日前



夜稽古の部が審査前学習期間に入りましたので夕稽古の部をお送りします。

県新人大会まで後三日の今朝、稽古はない…しかし、

「寝坊もよくないので集まろう」と 7 時に集合…。

先生が DVD でも観るか…バイオリン協奏曲が全編に流れる女性バイオリニストと指揮者のお話らしいが…English 字幕なし、しかも、ロシア語？も混じっている…

後半のみで8時10分にエンディング…

「何となくわかった？」

「何の曲だか知っている…？」

「ロシアの指揮者のリクエストに乗ってフランス在住の人気女性バイオリニストが封印していたチャイコフスキーを奏でることによって自分の出自を知る…までの顛末…」らしい…「血や魂が曲を奏でるシーンが好きだな！」

夕方の稽古は男子が「50分でどう…？」と云われると「60分…で…」

「では、女子は17時過ぎに始めよう…」

ビデオ観よう…「今度は剣道かな…？」

稽古内容は、2日前と同様なプログラムで始まったが途中から先生が口を挟んで気合を求めます…18時30分終了。

「2日前と同じようにはない！昨日とは違う日に違う自分が生きている…今がBEST！でいなくちゃ！」

※写真は、「打ち込み稽古」で自分の姿勢を直している証拠…「遠くから手足を合わせてスムーズに！」

9/20 安房に行くのは“初”だった。

決まったのが急なこともあり、不安に思う暇もなく当日を迎えた感じ…海や山々が見えた時には「とうとう来た！」と思った。

安房高校に着いた時は1番先に目に入ったのが剣道場だった。年季が入っていてただならぬ存在感。向かいには剣道部員が竹刀を振っていた。すぐに宿泊室に案内を受けて途中から参加した。道場にはこれ以上入らないんじゃないかと思うほど賞状、トロフィーがたくさん。やっぱりすごいところなんだなぁと実感した。

最初は所先生が太鼓を取って基本打ち。テンがよく進んでいく。練習内容は左足から出る、というものも多かった。片手面をしたのは初めてでなかなかうまくいかなかった。どんなに強くても、稽古中教えてくれたりだとか休憩中気さくに話しかけてくれたりして優しかった。強いからこそできることか…。途中で、

「みんな、中学何年生なんですか？」と聞かれた時はさすがに笑ってしまった。

地稽古では、構えてすぐ間合いが近くなったりして、すぐに打って行ってしまったり完全にペースを相手にとられてしまっていた。途中惜しい打ちが出たのにそれを決め切れなかったのが残念だった。廣瀬先輩に懸りにいった。初太刀はどちらも面に打ちにいった。振りが凄く速くて…私が竹刀を振り上げた時に既に相手の竹刀が目の前にあって当てるだけで精一杯だった。二太刀目はコテを打ってきてそれを抜こうとした時に引っ掛かり、もう一度離れてまた面を打ったが初太刀よりももっと速い面がきて相面となら

ない。大きくは振ってはないと思うけど打つ直前にすごく相手が大きく見えて怯んだ次の瞬間にはもう面を打たれていた感じだった。あそこまで凄い面を打たれて終わってからも謎の満足感みたいなのがあった…。

稽古自体のテンポが速く、打ち込みだとかついていけない場面も多かったが最後所先生が言っていたように、全国クラスのテンポを身をもって体験できたことは貴重だったと思う。実質3時間しかやっていなかったがすごく内容が詰め込まれた時間だった。

「もう防具片していいのかな？」と戸惑っていたらシャワーに案内されて部屋で一休みして、「これからどうする…？」と話していたら菅田先生がみえて「今から博物館に行くぞ！」と声がかかった…いまいち状況を掴めていないまま車に乗り込んだ。

「お腹が減っただろう！なにを食べたい！？」

「海鮮！！」

ということで「京や」という定食屋さんにきた。私とよしこは刺身五点盛りを頼み、菅田先生はきっと夜お刺身だからと、殿様天井、まつは地魚刺身と野菜てんぷら定食を頼んだ。



料理を待っている間「自己紹介をしよう！」と菅田先生の提案で簡単な自己紹介をし合った。最初は菅田先生からで、安房にきて2年目なことや、駒崎先生についても話した。駒崎先生には菅田先生も剣道を習いにきていたという。あと、フランスで剣道をしたときに凄く強い人がいたのだが、その方の話を聞いたときに菅田先生は駒崎先生が浮かんだと言っていた。「駒崎先生は、試合に勝つように教える、というよりも剣道そのものについてを教える方に重点をおいてると思う。そう考えると所先生と駒崎先生は本当に性格が真逆でいつも言い合っているが根本的なものは一緒だから仲良いいのだろうね…。」と言っていた。

その後、まつ、よしこ、わたしの順で自己紹介をした。志望大学や高校で剣道部に入ったきっかけなどそれぞれ自由に喋った。あとは、スコットランド独立のはなしとかもし

た。

お刺身は食べた瞬間に自然とおいしいと口から出るほど美味しかった。あの味をおぼえてしまったら回転寿しにはなかなか行けない。

菅田先生が「みんな高いところは平気か？この先に崖ギリギリのところに観音様がいるんだけど行ってみる？」「行きたい！」

本当に崖スレスレでどうやって作ったのか想像し難かった。ほぼ直角に近い階段を登りきったところに鏡ヶ浦を一望できる景色が。ちょうどそこには人が他にいなかったから独占状態だった。「この景色を見せたかったんだ！あそこは湾になっているから波が穏やかでその様子が鏡に似ていたから鏡ヶ浦っていうんだ」と菅田先生。

そしてメインの博物館へ。思えば博物館なんて小学校の遠足以来だった。岩崎巴人さんという人の絵が大きく飾られていた。その人は館山市名誉市民に選ばれた人。河童の研究をしていたため、飾られていたのは河童の絵が多くあった。飾られていた中でも『月下河伯』という作品が個人的に好きでした。すごく簡単そうに見えるけどあの雰囲気を出すのは難しいとおもう。そのあと房州うちわを見た。房州うちわは館山市特産の伝統工芸品で日本三大うちわのひとつ。ひとつの竹でつくられていて、製作工程が全て手作業、21も行程がある。こういうのは本当これからも受け継いでもらいたいと思った。次に渚の博物館コーナーのところにいった。そこは明治時代あたりからの網漁について模型でわかりやすくあらわされていた。他にも木簡のところでは日本史の授業でやったものも展示されていて楽しかった。

すごく充実した時間でよかった。波の音や潮風も気持ちよくて近くに海があるのはいいなと思う。駒崎先生の言っていたとおりで…帰ってきたころには午前中の稽古のことがずっと前のことに思えた。

9月6日(土)今日は中澤先生がお見えになった。

文化祭の話から始まり、そのあと大分県で合宿をしたことについても話してくれた。仕事の休みに剣道をするというのは他の先輩方もそうだが本当にすごいなと思った。やっぱり大人になると毎日が忙しくて無理矢理にでも時間を作らないと出来ないの、いまの私達は先生からしたら羨ましいのかもしれないと思った。

また、先生を慕って九州の方まで行くのも普通の人の感覚じゃ出来ないことだとおもう。中澤先生はここでの稽古を十分に生かしきれなかったととても悔しがっていた。

何年も剣道をやっているという感情が消えないのは一心で本気でやっている証拠だしそういう人と稽古ができるのは幸せだと思う。

中澤先生が大分にいった一番の目的は「はるみ先生の指導法」についてだったが、駒崎先生との会話で「今の指導は基本よりも試合に勝つために結果論的に『あ～やれ！こ～やれ！』って指示出す人が多い…」と言っていた。そう考えると中学のとき教えてく

れた先生はちゃんと基本通り教えてくれて大切にしていた人だったのでちゃんと話聞いとけばよかったと思った。高校に入ってから「あの先生が言っていたことは本当だった！」といろいろ気づいたので一度お礼を言いたい。

一挙動の打ち込みでは中澤先生が相手してくれた。すごく緊張したが、後で「振り下ろす時に一つに力が集まっていて、一番良かった」といつてくれた。

地稽古では躊躇して立った時にすごく体が軽く感じた。きっと構えで無駄な力が全然入ってなかったんだと思う。面も楽に出足が出てきたので、振り幅を意識してみたりした。大体はその時その時に動きを見てどこを打つかを決めたので次なにを打とう、とならなかったのがよかった。

中澤先生とは、近間で気を抜いてしまったのでそこは打たれてしまった。出足があったからか、返し胴や出コテはあまり打たれなかった。途中で中澤先生の竹刀が外れて自分の竹刀が面にあたったが、打ち切れなかったのもそういうところは確実になくしていきたい。途中に出したコテがよかった、と言われたのであのイメージを覚えたままやっていきたい。

今日は中澤先生、加納先生、栗山先輩が来てくださった。

8月23日(土)

私が少しつまづいたときに、中澤先生、栗山先輩、田上先輩のことを思い出していたので来てくださって嬉しかった。先輩方の苦労を考えていると、「私もがんばんなきゃ！」と思えたので。

中澤先生がいらっしゃると、前回と同じようにクーラーボックスを持ってきてくださる。『また何か持ってきてくれたね…裕子も好きだな…。』と先生が声を掛けた。

加納先生は又もアガなしでいらっしゃった。先日、『いい稽古が出来なかった』とおっしゃっていたので、そのリベンジなのだなとすぐに思った。

『先生方は、駒崎先生のもとに自分を確認しに来ている…』今日は特にその様子を感じた。

中澤先生は、初心者男子に素振りの足さばきを丁寧に教えてくださっている。“初心者”に教えていただいているというのは、飲み込みが早い…すぐに対応できるな、意味があるなと思われたということかなと思って見ていた。

稽古。またも愛ちゃんに一番を取られてしまった。中澤先生との稽古では、前さばきから中心、中心にメンを打ち込んでいく。『先に打とうではなくて、とにかく中心。』

左手を内側に意識する…拍子が取れたときは上手くメンが中心に打てる。前さばきから少し拍子を早くしたり遅くしたり。最後のメンは竹刀が相手の竹刀に沿っていた。

『松本のメンはね、もう一回入ってくるかなと思ったところで打ってくるから、わからないね…これはいいことだよ？普通の拍子じゃないからね。』

中澤先生との稽古では、中心、そして拍子が上手く取れていい稽古をさせてもらった。加納先生との稽古。加納先生メンは上から乗せてくるようなメンで捌けない。懸かって行ってメンに行っても乗られてしまった。ドウを打とうとして、手をあげたところを反応できたのは良かった。

次は先生に懸かせてもらおう。メンはなるべく相メンにするように…連打は裏表で。終盤のメンは、拍子を先取りできた感じがした。こうしたから打てたんだなと明確なものは覚えていない…。最後は摺り上げられるのを抑えて中心を取っていったと思う。このときの稽古は、応じられてきまいそんな技も打ち切れていたと思う。

その後、先生方の稽古が始まった。中澤先生と栗山先輩の稽古は、横から見ていると互いにすごく足が出ているのが見えた。しかもほぼ同じ角度、高さ。相打ち相打ちが続いていた。合気だ。

先生と加納先生の稽古はテンポが早くて激しい稽古だ…。お互いに、打ったり打たれたり。でも打たれっぱなしなんてことはなくて、突かれても打ち切る…。少し色が落ちて青かった先生の胴着も汗で真っ黒になっていた。前回の稽古を挽回するという気合い。1週間でここまで変わるなんて凄いと思った。

そして、栗山先輩が先生に懸かる。先生は加納先生との稽古の感覚が残っているのか、パッとドウを返したり…。ハイテンションのままで稽古が継続されていた…。

中澤先生との稽古では、相メンがどんどん打ち込まれていく。この稽古も横から見ていると足が同じ角度だった。気が途切れない…。

最後には中澤先生が『こう、私も竹刀を押し込まないように意識して稽古をしていたんだけどね…。今やったことは秋に、秋にやったことは冬に…っていうものだからね。』とおっしゃっていた。

加納先生は『前回がいい稽古出来なかったから今日は気を途切らせないように意識して稽古した。』

『剣道は先生方から教わるのはもちろん、剣道を初めてから日が浅い人が一生懸命にやる姿からも教わるものがあるんだよね。』と栗山先輩がお話してくださった。

栗山先輩はシャワー室まで歩いているとき『まっちゃん強くなったね。』先日、来ていただいてからそんなに日がたっていないのに、そう言っただけしたのは嬉しかった。最後に、みんなで中澤先生が持ってきていただいた、みずみずしい梨と疲れが取れる梅ジュースを頂く。梨は先生のご実家で採れたもので、梅も自家製。「美味しかった～！」本当に中澤先生には毎回感動させてもらっています。

私も先輩方のような大人になりたいと、思った。

8月23日(土) 先生と地稽古をするのは10日ぶりだった。

テスト期間よりも長く剣道から離れていたと思うようにはいかないだろうなと思っていた。構えると足がぐらつき、じっとしているのが難しい。でも足は思った以上に前に出れたので面もスッと出れたものもあった。部員同士でやるときは自分のことで精一杯という感じで相手がどうしたから、というよりも自分が出れるとなったから打っていた。先生が、「打たれる！と感じてその一瞬で返せば一流」と言っていた。わたしは竹刀を振り上げたときに打たれる、と分かっているけどそのまま手が止まらないままいつか打たれてしまう。感じることは出来るので、そのまま体が動ければと思う。面は、くる！と感じると同時に面にいけるので、これも自然に出来るようになると思う。

そのあとは中澤先輩、加納先輩、栗山先輩が来て稽古してくださった。最初に駒崎先生にかかりにいったが途中でど真ん中にいった面があつてなんだかすごく久しぶりの感覚が手にきて、すごくスカッとした。そのあと、また！ということもなく終わってしまったが、感じはなんとなくおぼえているので横にそれ癖をなおしたい。

加納先輩には待っていてもダメなので、自分からどんどん打ちにいった。そのうち何本か惜しい打ちがあったが、今日のテーマでもあった打ち切りが出来なくて一本にできなかった。あと5本くらいノーガードの面をもらった。全然テンポを掴めなくて集中しているはずなのに、ポンと軽く打たれてしまった。負けじとわたしもちょっとずつ拍子をかえて打つていった。最後に強くなったね、これからは伸びるよと言ってもらえて嬉しかった。

栗山先輩には気を緩めた瞬間に毎回打たれてしまった。また、全然拍子がつかめなくて、出ようとしたら距離を取られたりして難しかった。また引き技も打つ前に全然力が感じられないし、竹刀の軌道も見えないので鰐競合いときは怖かった。

駒崎先生と加納先輩の地稽古は圧巻だった。目の前でやっているけどレベルが違いすぎてなにか遠いものを見ているような感じだった。お互い一瞬の隙も見逃さないでやっている様子は見ている側も息苦しい感覚になった。

最後の方になっても先生の面が全然ぶれずに真っ直ぐいっていたのが凄かった。キツくなればなるほど凄い技が出る、と聞いたときは首をひねっていたがこれがそうなのかと思った。

最後に中澤先輩が体調は大丈夫なの？と話しかけてくれた。剣道の話になったときに、連打とか最後まで続けたいと思っても続かなかったり、打ったとき失敗すると足が止まったりする、と相談した。中澤先輩は、連打を続けよう、足を捌こうという意識を持つよりも、気を繋げること一点を第一優先にした方がうまくいく、と教えてくれた。気を繋ぐというのは今日一日先生や加納先輩も言っていたことで、栗山先輩も打ちの速さという技術よりも精神を鍛えることが大切と話していた。先生と中澤先輩との地稽古で最後の面は気を繋げ続けていたから出た面だと思うから今日一日でその見本をたくさん

ん見られた。また、中澤先輩が高3の冬、ダメだと言われ続けていたことを極端に180度大げさに変えたらそれを先生に「よし」と言ってもらえたからなにかを変えたいと思うならそのぐらい変わらないと変わらないということを教えてもらった。これは剣道に限らず他のことにも通じることだと思うので、しっかり頭に入れておく。

中澤先輩が梨と梅ジュースを持ってきてくれて美味しくいただいた。あと二日。今日の稽古をあしたも活かせるようにしたい。

今日は、栗山先輩がいらした。 8月17日(日)

“今日は、どうした…？ 何かあるのか…？”と先生…。

“日曜なので！普通に休みです。”と先輩…。

そう聞くと、社会人なのだなと改めて思う。

“私が働いている会社の採用試験は…だから、「遣えるとか遣えない」は関係なくて…私の方が働ける自信はあるよ…大学に行っても社会で通用しない人にはなってほしくないからね。”

栗山先輩に「常識がない」と言われると、「グサッ！」ときた。

稽古では、理先輩が一番にかかる。久し振りにやらせていただいた気がする。

攻めのテンポが速く、「スッ」と入られて打たれてしまう…お互いに入ったところは、癖のように下がってしまつて…打たれてしまう。

そこで前だ。近くなったら“大胆に”…間合いを変えたり…。私が思い切り出ると、何本か当たった。最後は相メンを3本打ち、最後の1本は私が打てたのでそこで終了。

“まっちゃん！スロースターター！”

“後半、自分のタイミングで出られたところはメンに来ていて良かったけど、最初にそのメンを出していないと…。光太郎から高瀬先生がまっちゃんに打たれたって聞いていたし…そんないいメンがあるのだから！”

最初は完全に理先輩のペースに吞まれてしまっていたと思う。

先生と理先輩の稽古。理先輩は構えが崩れない…拍子が読めないメンだな。以前に稽古をつけていただいたときとは、何かが違う感じがした。雰囲気が違うのか。相メンでも力みが全くなくて、簡単そうに打っていてすごいと思った。

最後に、理先輩は

“体育科の先生はみんな元気…？高橋先生は？宮本先生…中村先生は？”

と体育科の先生方のことを聞かれた…自分がお世話になった方を気にかけていた。

栗山先輩ほどにはなれないかもしれないけど、社会で通用しない人にはなりたくないと思わせてもらった。

夏休み後半稽古再開です！ 8月16日(土)

お盆休みに入る前に“休むとすぐに消えちゃうからね。不足は自分で補って、気を張って…”との話があった。

休み明け。愛ちゃんはお盆休み中も先生に稽古をつけてもらっていたようだ…。稽古では、集中出来ていたけれど拍子が読まれてしまっていた…テンポが遅いからか。コテを触られてしまっているところは、足が止まってしまっているのです、どうにかしないとな…。

先生の話の途中、加納先生、田中くん、加納先生のお子さん方がいらした。

“おお！何で来たんだよ！”

先生が最近、お話しされていた田中くんも一緒だ…みんな先生の孫弟子…。

“お父さんは？アメリカから帰ってくるの？もう、アメリカの学校に行けばいいじゃん！” お父さんがアメリカにいらっしゃることから驚いていたのに、話がアメリカに住めばいいじゃない！という話になる。すごいなあ～。確かに、アメリカに住めるなら住んで、英語ペラペラで帰ってくるなんてカッコいいなあ。

“剣道はしっかりしているし、勉強だって出来るよ…、大丈夫だよ！ちょっと、日本に帰ってくるタイミングが悪かっただけ…社会に出る頃を想定して、しっかり考えな…！”

田中くんの両親のお話を聞くとどちらも凄い剣道家。

加納先生に懸かった稽古は、少し溜め…相手の拍子を掴みながら…ということを意識した。最後のメンもあまり納得のいくメンを打てなかった。

元立ちになり、田中くんと稽古をした。近間に入ってきてそこから竹刀を回りしたり…引きメンも惑わせてから打つもので、打たれるのが何本かあった。構えを崩さなければ…と意識していた。田中くんは構えが少し固いかなという感じがした。

加納兄弟とは、一緒にメンに出て…とやっているのと弟くんはメン摺り上げメンがすごく上手で驚いた。

もっと、上手く稽古がつけられる人になりたいなと改めて思った。

洸くんと田中くんの立ち会い。

洸くんも負けていなかった！あの田中くんの引きメンは打たれてしまったけど、拍子に出れているメンは、かなりいい感じだったと思う。力強さ、テンポの速さはやはり田中くんはすごいなと思った。

最後、加納先生は

“迎え突きって怖いよね？”

“三部錬かぁ…懐かしいなあ…”とおっしゃっていた。

(先生は、男子とも稽古されるので…何と！四部錬です！)

私も「迎え突き」されるってことは、「それ以外に成す術がなかった」という風に捉え

られるようになった。

最後に加納先生に

“大学、どこ目指しているの？”

“今、自分がすべきことは何か考えてね”

という言葉を受けて、このままじゃダメだなと思った。

今、自分のすべきこと、出来ることを考えて少しでも夏休み残りを過ごさないとなと思った。

8月11日(月)

今日は、中澤俊先輩、和先輩がお見えになった。

峻先輩は就職が内定され、その報告に来られた。

ご両親と同じような、道を進まれている。

“300人に一人？300倍？”

学年で一人と同じことだ…その一人に選ばれたということは、学校では違う空気を纏って生活しているのかな…当たり前、そのような生活ができる…。

地稽古…。

和先輩は、遠間から竹刀で中心を取りあいながら、捌いていく…打つ初動は全く見えなくて、気づいたらもう打たれてしまっている感じだった…。

私は、竹刀の中心の取り合いから、下がったところや前捌きから見えたとこを打っていった。何本か返されないメンがあったのは、打たせてもらった場面だと思う。

良かったのは普段、先生と竹刀の前捌きをやっていることが出来て、攻められても誘われて出ていくことが少なかったこと。

峻先輩は、構えてじっくり攻める…峻先輩とやったときは構えを崩さずにいれた…最近、相手が少しいつもと違うように見えるよえになったので、無理に出ていくことが少なくなったような気がする。

先生方の稽古。

峻先輩との稽古は、まず最初の声がすごい気迫。構えは柔らかくてストーンという打ちだった。“ああそっか…”途中で、先生は数年前を思い出されたようだ。

“一本！”よし。と思える技が出るまで向き合う。最後は峻先輩が返しドウをスパーンと決めて稽古は終わる。

和先輩は、初太刀はコテ！手元を上げさせて竹刀を相手の竹刀と平行にスパン！と打った。先生が捌こうとしても、早くて避けたところも打ち勝っている…出足、体の勢いが押しているなという感じだった。

稽古終了後、“先生、和と稽古してもいいですか？”

こうやって断りを入れる社会なんだ…。

峻先輩と和先輩の稽古が始まった。

『3本勝負かな…？』一本目は、和先輩がメンに出たところを、峻先輩が上手く出ゴテを打った。

最後は峻先輩がメン、当たらずにもう一本メン！が決まり稽古終了。

兄弟、そしてお母さんまで剣道をされる家庭というのは私には想像出来ないなと思いながら、御二人が話しているのを見ていた。

“成るように成るのだな…”

普通なら無いような経験をされている先輩方がいらっしゃる機会を大切にして、もっと視野を広げないと…と思った。

8月10日(日)

今日は**久保田先生、深野先輩、栗山光太郎先輩**がいらっしゃいました。

深野先輩は初めてお会いする方で、自衛隊に所属されているそうです。段審査のときから先生の防具をかりたまま…だそうです。

久保田先生も参加され、私たちは足さばきからはじまり、素振りをしました。左足、左足と思いながらやっていたけど右足重心になってしまいました。右足がついた瞬間に左足を押し出す！指摘されたすぐあととはできるのに継続ができない…気を持続しなければと思います。面をつけて地稽古。先生方が元に立たれて地稽古、打ち込み三本、切り返しとやっていきました。

栗山光太郎先輩と愛ちゃんの稽古は愛ちゃんが面を打って、おおっと思いました。次に私、左足、左足だけを考えて面を打っていきました。が、また右足重心になっていると指摘され、「打たなきゃ」や「いつ行けば？」などの余計なことを考えてしまっていると気づきました。とにかく左足！

次は久保田先生にかかせていただきました。左足だけを考えて！面を打っていきました。しかし振り返ったあと、私はなにもせずノーガードで打たれました。気が続いていないからだとおもいます。切り返しで途中止まってしまったり、大きく息を吐いてしまったので気をつけないと思いました。次に深野先輩にかかせていただきました。目を合わせると眼光が鋭く射られているようで足がすくみそうになりました。大きく声を出すとまっすぐ左足！で面を打っていけました。切り返しも息を半端に切らず続けられました。

一回りして私たちは面をとり、

駒崎先生と久保田先生、深野先輩栗山光太郎先輩の稽古、

正座をしているので足さばきがよくみえます。光太郎先輩が技をだすとき、右足と左足がほぼ同時に着地しています。前に跳ぶのではなく進むという印象でした。

深野先輩は最初に、「最近はほとんどやってないです」とおっしゃっていたのにあんなに動けるのかと思いました。駒崎先生は、深野先輩が動けるのは体を動かす仕事をしているのと感覚が身についているからだとおっしゃっていました。私も自然に正しく動けるようになりたいと思いました。

最後は円になって礼をしました。並んでいる人全員の顔が見えるのはいいなと思いました。

今日は、**中澤先生の七段昇段のお祝い稽古会。**

中澤先生は、先生方の言葉を借りると「強いからこそ優しい方…子育ての合間で剣道をやり、七段を取られた。」

今年はかなり、小金に稽古にいらしていただいていた。七段を受ける前の稽古も拝見していたので、七段昇段されたときいたときは、嬉しかった。

正直言うと、相手が男性であっても四人組のうち一人しか受からなかった…1人受からないグループも沢山ある…というのは知らなかった。(今回の合格率 16.9%)

改めて考えると、主婦でありながら剣士であって、そのなか七段に受かれたというのは凄いと感じた。

先生方が来られる。私は今泉先生を初めて拝見できた。よく、先生の話に出てくる方ばかりがいらっしゃる稽古会…やはり、空気が変わるなあ…。飯田先生は、来られるや否や、都道府県大会のお話をされていた。

私たちは、いつも通りの足さばきから始まる。

久松先生のお子さんも一緒に混ざって竹刀を持つ…お母さんは、

「ちゃんとここを持って!」と強くおっしゃる…剣道は、「やるからには正しく」というような心構えが見えた。

竹刀打ちのあとは久保田先生と愛ちゃんの稽古。

愛ちゃんは、毎日やっているように構えたところでじっとしている…久保田先生が知っている愛ちゃんとはちゃんと変わっているだろう…と思った。

栗山先輩と斉藤さんの稽古。国士舘大学を今春卒業と入学の先輩、後輩…。

斉藤さんは、構えたところからストーンとメンがしかも鋭く出ていて、栗山先輩も打たれているところがある…栗山先輩は足捌き動きの中から絶妙なメンに出る…なかなか見ることが出来ない稽古だな…。

すると、先生は白の道着、袴を身に纏い、面をつけ始める。

駒崎先生と光太郎先輩の稽古だった。稽古が始まる前から光太郎先輩のオーラが凄くてすごい気迫だな、と思った。わたしでも分かるぐらい以前見た時よりも強くなっていた。最後に光太郎先輩が打ったメンは、中心を割るようなメンですごかった。

次に中澤先生に水先輩、飯田先輩が稽古をしていた。

もう高校時代から何十年も経っていても未だに剣道を通して続けている、っていうのは

本当に凄いことだと思う。きっとお互いがお互いの手の内を知っているはずなので、すぐ白熱していた。連打の中でも足を前後だけでなく左右にも開いて手よりも足の方に目がいくぐらいだった。

そのあとは、私達が先生方に懸かることができた。私は最初から中澤先生に一番に懸かっていたと思っていた。いつもは「お願いします！」と言いにいかないけれど、今日は思わず言ってしまった。

“少し休んでからでいい？ちょっと待っていてね。他の人に並んでいてもいいよ。”

先生が休んでいらしたので、桑水流先生に懸かった。

ちょっと避けられたり捌かれたりすると止まってしまってそのあともなんか誤魔化しながら間合いをとって～、というのが続いた。「これじゃだめだ！」と思ったので気持ちちは面の打ち込みのように、と思いながらやると真っすぐいってよくなった。

中澤先生に懸かったときには、中澤先生の目がいつもと少し違う気がした。私もその目に集中して、構えていた。少しの動きがあれば行こうと思っていた。待っているだけではなく、前裁きを剣先で…拍子を掴めたときには何本か打たせていただいた。あとから、挨拶に行く

“最後は良いメンもらったな～、剣先で力を抜いたり入れたりするところを見て、入れたところを打とうって思ったのだけど、打てなかったね。で、抜いたところ普通は打てるのだけど、松本はちょっと違うね。身が締まる思いになりました。”

と、最後はニコツとして話していただいた。

久松先生に懸かったときには、駒崎先生とやっているときもあるのですが中心を持っていけてなくて相手の竹刀に沿ってしまっているメンになってしまった…優先順位！

地稽古が終わった後に光太郎先輩と斎藤先輩の切返しを見せていただいた。

私は立ち位置的に二人の真っ正面から見ていたが、角度とかずっと一定で最後の面もど真ん中に入っていて凄かった…。

稽古が終わり、円になって並ぶ。お互いの顔が見える並び方。

飯田先生から中澤先生への感謝、中澤先生が七段をとられるまでのお話があった。

中澤先生に久松先生のお子さんから紙で作られたお花のプレゼント。おしゃれだなあ…。

小金高校から円心塾 裕子と入った袴が…中澤先生は“わぁ！嬉しい！”と…。

最後には、初めて撮る集合写真。「記念になるからしっかり並べ！」

このように世代もバラバラな方々が集まって一緒に稽古をするというのは「素敵だなあ…」

と改めて感じる。幸せな空気に包まれているような感じがした。





桜武館の稽古に参加させていただきました。

平成 26 年 6 月 22 日

道中、中澤先生が今日いらっしゃる先生方のプロフィールを言っているのを聞いていたが、ぼんぼんと簡単に優勝とか代表というのが何回も出てきてもう本当異次元のような人達が集まっているのだなと思った。

新宿というとビルばかりが林立する都会で、私達のような年代の子がショッピングに行くようなイメージだったのでそんな中で「道場をやっている」のが意外だった。

着替えて道場にでると続々と小中学生も出てきて、話で聞いていた桜木哲太郎先生や名木先生もお見えになった。その後、みんなに混じって竹刀で受ける基本打ち込み練習だったが、最後のほうになると足がもつれたり手足があわなくなったりして最後の面に思いつきいけなくなったりして難しかった。自分のなかでしっかりリズムをもっていけばうまくいったが曖昧のままだと途中でつかえることが多かった。

桜木哲史先生がお見えになって挨拶しに行く。

「先生が駒崎先生で、剣道を習っています。」と松本が緊張して言うと

「駒崎先生に習っているのに来たのか？」と言われて笑われてしまった…言葉が足りなかったなあと思う。先生から桜木先生が厳しい人だと聞いていたが最初会った時、笑顔で迎えてくれて PL の川上先生を思い出した。

稽古前の礼式の時に桜木先生から問いかけがありました……

「剣道を強くなるためには……？」

「剣道だけでなく勉強も……」や「見えないところを打つ……」ということが挙げられた。

「見えないところを打つ……」というのは今日最初から最後まで取り上げられた話。

確かにそれが出来たら強くなれるかもしれないが、それをすることが難しい……。

「見えないところってなに？」

「人の心！」

「どうやってみるの？」

「竹刀をつたって…、相手を動揺させて……」と。

それを出来るようにするには稽古するしかないわけで、やっぱり楽には強くなれないのだなあと思う。

地稽古では最初はまだガチガチであり思うように体が動かなかったと思う。

空気がすごく張り詰めていた。

哲太郎先生には打ち終わったあとに気が抜けてしまうところを注意された。

「一本勝負ね！・・・あっ！一本と三本勝負どっちがいい？」

と聞かれて欲張りに

「三本勝負でお願いします」と言った。

相面が続いたがそれで一本取られ、そのあと出方をかえてタイミングをずらして面を打ったが避けられてしまう。最後に面が当たらない状況のときはどうすればいいか・・・アドバイスをいただきました。

稽古途中で桜木先生と富永先生が真ん中で胴打ち？形のようなものをしていたが

「ただただ、かっこいい・・・」と見とれてしまった。（記念胴の『打ち初め』ではないですか？）

桜木先生については話やビデオで見聞する方だったので実際に同じ空間にすることが信じ難く感じられた。桜木先生も面をつけてしまうと65歳には到底思えないほどで立ち姿が綺麗だった。

富永先生との稽古では最初思いつき自分でも出られたと思ったがそれ以上に凄い面がでてきて、私の竹刀はかすりもしなかった。そのあと出コテをとられたので出方を工夫しながら、どんどん思ったことを実践に移していくのが楽しかった。ただ途中から足がばたついたりしてしまった。稽古後にアドバイスをいただきました。

八段の先生に懸れた稽古は初めてだった！感激です！

そのあと木塚先輩と三本勝負をしていただいた。

桜木先生が木塚さんに「出て行っているのは1.2本」というハンディと、「絶対にとられるな！真剣勝負！」と厳しい一面も。

出来る限り同じ面は打たないで、中心を大事にしてどんどんいこうと思った。

木塚さんも国士舘だからというか面中心だったが・・・ふいにくる「担ぎコテ」で一本目とられてしまった。でもまたその後に「担ぎコテ」が出てきたが手元をあげなかったのによかった。すごく足を捌いて前後左右に動くので、打とう、と思っても狙いにくくて大変だった。最後は面に出たところを合わせられて面をいただいた・・・打たれはしたが私にとっても気持ちのいい終わり方だった。

その後、先生方が桜木先生へ懸る稽古を見とり稽古させていただいた。

駒崎先生が桜木先生は腰が強いと聞いていたが哲太郎先生に体当たりされても本当にびくともしなかったし、内田先生も返しドウに来たところを一瞬に捌くと内野先生が倒れてしまった。啞然としました。

それに何より「あの面」が・・・「ただただ、凄いな」・・・と思う。

相手はあんなに神経を張り巡らせているのに、いとも容易そうに面を打つから本当にもう・・・どうやっているのかなぁと思った。

目の前で繰り広げられているのはレベルが違いすぎて

「これももう画面の中なのかな～」と感じた。

打ちは鋭いもので、何であそこを打てるのだろう、といく局面がたくさんだった。

終わり際に、「全部、先生たちの見えないところは見えています」という言葉そのものだった。

駒崎先生が駒崎先生より上の人達と稽古しているのは初めて見た。

すごい気迫で、より一層空気が張るのを感じた。前に駒崎先生が

「俺では、触れないしボコボコにされる…」と言っていたが先生も凄かったと思う。

駒崎先生が最後に打ち込みをしようと打ちかかっていこうとすると桜木先生が制止して蹲踞になりましたが…かかり稽古見てみたかったです。(切返しのつもりでした…)

最後に名木先生に桜木先生が話しているのを後ろで聞かせていただいた。

「私の恩師に戦争で膝に銃撃を受けて足を引きずっている人がいる。でも彼はこの怪我があったからこそ範士九段をとれたと言っている。あなたもそのハンディを不利ととらえないでプラスに考えていきなさい」と。

「これはきっと大野先生について話されているのだ！」と思った。

こういう初めて行った場所でも自分が知っていることが出てくると嬉しかった。

中澤先生が桜木先生の小学校時代の話を読まれた…KB さんにも話されていたが

「私達は住んでいる世界は一緒だよ…」と読まれた。

みんな桜木先生のようになりたいくて、じゃあどうすればいいか探すため日曜の夜でもみんな集まるのだよと中澤先生が話されていた。

「また行きたい？」

「行きたいです！」

平成26年度全国高等学校剣道大会千葉県予選会

(練習パートナーとして参加して)

平成26年6月14日(土)

木更津市民体育館

今回は木更津なので前泊して行くことになった。

行く前に M ちゃんに「私は一番になにをすればいい…？試合の応援…？練習相手…？それとも励したり…とかしたらいいの…？」と聞くと

「それ、全部ひっくるめて応援だから全部やって！」と言われた。

県予選から大会までどんどん日が速く感じて「あっ！」という間だった。

3時過ぎごろ、木更津市民体育館に着いた。もっと人が大勢いるのかと思ったが全然いなくて剣道場を貸し切りにして三人で稽古をした。

稽古は、何時もの通りで先生に二人が交代で懸る。

その時の稽古でも「打ってから手を上げすぎないように…」と注意された。

無意識でやってしまっているからもう癖になってしまったのだと思う。最終的に来年までには治せるように意識しながらなおしたい。最近、攻め入りの仕方を工夫しながら面に飛び込んでいくと以前の 1 テンポの面より当たることが多くなったので拍子やタイミングを気にしながら打っていくのが楽しくなってきた。もっとたくさんレパートリーが増えたらいいなあと思う。

M ちゃんは、予選前から毎回と言っていいほど先生を打っていたが…昨日今日と成りを潜めてしまった…打てて凄すぎだったから…今が、ちょっと良くないように見えるけど、良いのがずっと続くわけもないし、また前よりさらにパワーアップすると思うからそんなに心配はしていなかったし、先生も別段それには触れてはいなかった…。

稽古を終えてホテルに向かう。

夜ご飯は、第一候補の「宝家」さんが予約のみだったので…歩き回り最後に見つけたとんかつ屋さんの「とんとん亭」。

「あさりご飯」を食べることができなかったのは残念だったが、明らか私たち二人は場違いのようなところだったので内心ほっともしていた…それにとんかつも美味しかった！「湯葉とんかつ」も食べてみると違和感なくて自然とマッチしてよかったし、デザートまでつけてもらえた。ホテルに帰って先生の部屋で桜武館のビデオを見た。M ちゃんが初めて行ったところとは思えないほどのびのびとやっていて「凄いなあ～」と思った。来週私も行けることになったので自分らしく出来るように頑張りたい。

夜は 10 時 30 ぐらいに消灯したが暑いのか布団が変わったからかそれとも緊張しているのかなかなか眠れなくて部屋を一人で歩き回ったりしてやっと寝る感じだった。

朝はとてもリッチな朝食だった。オムレツがとてもふわふわで美味しかった。

会場に着くと、本当に昨日行った体育館と一緒なのかと思うぐらい人であふれていた。一本差で県大会を逃し引退した三年先輩も応援に駆け付けてくれた。そのあと M もちゃんのお母さんも来て…M とちゃん…そわそわしていてやっぱり緊張しているみたいだった。私もなんだかこのまま試合に出そうな気分になってきちゃっていた。開会式は上から見ていたが白×白の人は女子で 3 人しかいなくて「すごく目立っ～！」という感じだった。

全体の試合はもちろん技術的にも地区より断然凄かったが雰囲気も違った。団体と個人の差もあると思うが、地区の団体戦で座ったときと今日補欠で座ったときとは全然違った。なんだかすごくびりびりしていて空気が張っていた。M ちゃんの試合は惜しかったと思う。最後のほうは相手の面はほとんど届いてなかったり、曲がってしまっていたので「もう数分あればもしかしたら結果は変わっていたかもしれないな～」と思った。結果からいっちゃえば彼女が優勝したので、それであそこまで大健闘したのは本当に凄いなあと思うし強い相手だからこそ奮闘の程が具体的に称えられる…。

一方、メンの打突の振り上げが足捌きを失速させていた…試合後、私たちは珍しくフロアに残って勝ち上がっていく選手の試合や立ち振る舞いを先生が解説してくれていたの勉強会になっていたのだが…「打突後の振り上げ」をしている選手は若干名しかいなかった…そして、あれが一本になっていたかもね…ということだろう…。

三回戦まで見取り稽古と応援をした…「私も来年はここで試合をしたい!」と感じた。帰宅時に先生が駅弁を買ってきた…あさり弁当…（こういう、「ご当地もん食する」は、あの優秀な大監督さんから学んだ「振る舞い」だそうです…。）

「美味しかったです!」

この二日間、美味しいものばかり食べていました。

平成26年度全国高等学校剣道大会千葉県予選会

平成26年6月14日（土）

木更津市民体育館

大会前日、その前日から調子が上がらなかった。けれど、どうしようとは思わなかったのがよかったのかもしれない。考え込んでも相手は格上で、

「やるっきゃない!」と思っていた。

木更津に着き、剣道場で稽古をする。この時も、なんだか良くなくて OCHI の方がいいなと思ってしまったり…。でも、自分のモチベーションは上がってきていて、緊張はしなかった。稽古は、一瞬一瞬に見て次が出てき…いい感じできていたと思う。

ホテルに着き夜、桜武館のビデオを見ているとき先生が“はるみ先生の声だけを聞けるだけで涙が出てくる”と言っていたのを聞いて、改めてその場に入れたことに感謝した。

先生のいろいろな思いを聞いたようなきがした。

これまで、この日に合わせて稽古してきたが、積み上げて上がってきたのは初めてだったかもしれない。自分に自信がでて、マイナスな諦めのような気持ちは無くて…。ここから、強くなれる段階になれた気がした。

朝、会場に着くと人が群がっている。そのなかに、二人でいるとなんだか誇らしげな気分になってくる。

会場に入り、正面に大会名の書かれた横断幕を見る…「先生のお父様の字…」と、「ああ、来たな…」とピリッとした。

少しすると各選手のアップが始まる。私達はしようか迷ったが、いつも通りしないことにした。

観覧席から観察する。パッと K 選手を、見つけられた。切り返し、基本うち、打ちがスムーズなことは分かった。全体を見渡すと、作戦通り“白い胴着、袴”の選手はほぼいなかった。目を引ける。

時間だ。会場に降りるときに習志野の生徒さんが“あつ、M ちゃん!”と声を掛けて

くれた。いちいち、そうゆうことに喜んでた。それと、先輩が来てくれていた。木更津まで一人で…ありがたかった。

開会式…ふと、はるみ先生の顔が浮かんだ。

“真っ直ぐに正しい剣道。”

先日の経験はとても自信に繋がっていた。

審判長挨拶。関川先生の名前が呼ばれて、“あっ”と思った。

そして、川崎さんは選手宣誓をし関東大会の結果が、放送される。

このとき私は“こんなすごい人と1回戦目にできるなんて。”と思った。試合ハイみたいになって、試合が楽しみになってきてきた。

試合が始まる…決めたことは必ずやる、余裕を持って相手が見えていた。少し打てたシーンも、相手を崩せたシーンもあったが一本には至らずに…一本負け…。



試合が終わって、面を取ってから余韻が残っていて、

「今からまた戦えと言われてもいける！」という何かが自分のなかに残っていた。

「もう少し長く試合をしたかったな…」

Kさんの延長戦を見ているときにそう思った。

帰宅途中に、木更津駅で先生に買っていただいた「潮干狩り弁当」を食べた。



「おいしかった！」

このお弁当がおいしく食べられて良かった。

初めて参加した個人戦県大会。

“楽しかった…。また、この場に来て、ここで強い人と一緒になって戦いたい”
と思った。

ここをこうすれば…というものはあったけれど、それが出来ればと前に進む糧にして、
また来年に向けて積み上げたい。

千葉県高等学校総合体育大会剣道大会第11地区予選会

5月31日（土）

流山おおたかの森高校

前日に個人戦の組み合わせを見て「細谷さんと当たりたいな・・・。」と思っていた。
大会 1 週間前は先生と地稽古のメニュー。だんだん自分たちで調整していく稽古で初心者の子と面打ちの基立ちで 30, 40 分。自分では、試合の感覚がなくなっていくのではないかと少し不安だった。

前日に個人戦の組み合わせを見て「細谷さんと当たりたいな・・・。」と思っていた。そこで先生とやっている時、落合とやっている時・・・何を考えてやっているのかを、思い出そうとしても思い出せなかった。

「パッ！」と思い浮かんだことを実行するようになってきているのかもしれないと思った。反対に、思い付きだけで技をつなげられていないということもあるなと思った。

ミーティングでは、「延長になってもいいから勝ちにいきたい」と言った。落合が帰りの電車では「明日は午後まで残んなきゃね～」と言っていた。

会場に向かうとき、私はいつも以上に緊張してしまっていた。今までは、個人戦にそこまで焦点を当てていなかったかもしれない。今は個人でも戦えるようになった実感、自信が出てきた。

体育館に着くと、アップの時から雰囲気が違う感じがした。

開会式の川名登喜男先生のお話

「インターハイに私が出た時は、予選リーグで関東大会優勝の安房、九州大会優勝の八代東、四国優勝の新田という組み合わせでした。一試合目から緊張のハイレベルな大会なので。そこでは監督の顔を窺ったりしているような選手は通用しない世界です。素晴らしい選手が集まった素晴らしい世界です。是非、みんなに行ってもらいたい・・・そのためには「勝て！」と云うしかないのです。しかし、今日の出場者の多くが負けるのです。悔いの内容に戦ってもらいた・・・試合に関しての助言としては作道先生の言葉を紹介します。

「相手が転んだら立ち上がるのを手伝ってやれ・・・竹刀を落したら膝をついてとれ・・・反則ギリギリまで何をやってもいいから勝て！」という話があった。

駒崎先生には、「審判長の川名先生の言葉のようにやれ！」と言われた。

待っている時は何を考えていたのだろう・・・。あまり覚えていない。

SENA の試合は 1 本目は、きれいに決まっていただけに、2 本目にとられた面は「えっ」となってしまった。3 本目も何かあっけない感じがした。

試合を見ていた KA ちゃんも「えっ、SENA 先輩負けちゃったんですか？」と SEN A が負

けたことに、「ああ」ではなくて「えっ？」という感じだった。

RI ちゃんの試合は前日のミーティングでも言っていた、「相手より声を出す。」ということがすごく伝わってきていた。

私の 1 試合目は、六実の T さん。前の試合を見て突っ込んでくるタイプの人だなと思った。でも、私が応じメンを 1 本目に打ったら胴を狙ってきた。相手が打った後、手を上げて避けたところをコテにいくのが癖になってしまって、なかなか 1 本にならなかった。すると、だんだん 2 段打ちの技ばかりになってしまった。延長戦で決まったコテは入りの遠間を意識したことが良かったのだと思う。

2 回戦目、市松の T さん。試合を見てコテが得意なのは分かったので、それは絶対に打たれないようにしようと決めた。向かい合うと、そのコテに対する強い攻めみたいなのはなかった。

3 回戦目は流山の H さん。目標にしていた相手だ。構えて、相手は、私の 1 回戦目、2 回戦目を見て、応じ技を出させないように、打ってこない作戦をしてきた。打っていったら絶対胴を打たれると思った。攻め合いではやはり、あまり相手はくずれなかった。でも、私が打った機会では、相手は避けるだけで返されることはなくよかった。

打たれた引きドウは、隙を取られてしまった。悔しい。引き技が得意なのはわかっていて、メンばかりに気を取られていた。甘いところだった。

5, 6 位決定戦。流山の M さん。ここまで来たら、もう相手が誰とかあまり考えていなかった。不安もなかった。あの場所に残れたのが嬉しくて、楽しくなってきた。

流山戦・・・試合中に一番思っていたことは、攻めて、攻めて・・・引きドウは「今だ！」という言葉が出た。

5 位決定戦。六実の S さん。相手が面に来るのが分かって、合わせられるなと思った。1 本惜しいのがあってから、タイミングがとれた。打った後にすぐ攻めれば、相手は崩れると思ったので、常に先手、先手でいけた。



最初の試合と、最後の試合では、かなり感覚が変わっていった。でも、個人戦は長く自分のペースで持って行けるから余裕を持って行けた。でも明日は、団体戦。また試合の流れの持っていく方を変えて臨みたい。

平成 26 年度 関東高等学校剣道大会千葉県予選会

5 月 10 日（土）成田市体育館

試合前日に、みんなで試合に向けて「どうしたいか宣言」について話し合いをした。

先鋒から順にスピーチした。

“やっぱり、メンでいきたい”や、“声を出して元気にやりたい”など。私は、剣道研修会の川上先生の言葉“正しくやっていれば勝ちか引き分け”が強く頭に残っていた。なので、大阪の時のように、先をとり打ったら連打、技を繋げてやろうと思っていた。

それぞれが、宣言したけれど“よし、帰ろうか”となったときに、世間話のようにペラペラ話始める。

Tonn ちゃんは自分なりにいろいろ考えていたみたいで、自分がやりたいことかみんなが求めているもの、が自分の中にある、それについて話した。

Ochi は、考え方はいつも変わらなくて“メンでは負けたくない”というスタンスだという話をしていました。

当日、成田駅集合。全員で体育館に向かった。体育館には、たくさんの人がいた。でも、緊張はしなかった。思っていたのは、「大阪の成果を出さないと…」というか、「いい試合をしたい…」ということ。待っているときも、自分達で話していると、普通の人に戻りそうで少し心配だった。

男子の個人を見ていると、習志野の中村さんと安房の村上さんの試合になっていた。長い試合になっていたが、私はその試合を見ると自分が作れる感じ、イメージが作れた。

男子個人が終わったときに、習志野の人達が出てきて、私を見た O さんが“こんにちは！”と笑顔で言ってくれてとても嬉しかった。

あと、野田二中だった今、六実の I さんも挨拶をしてくれた。友達の輪が広がったような気がした。

あと、Ochi が後輩と会ったみたいで 1 時間くらいペラペラ話していた。R ちゃん、K ちゃんもすごいですね……と言っていた。

そのとき、Tonn ちゃんがふいに、“先生が、よくしゃべるやつは強いんだって言っていたよね”と言った。Ochi もすごいけど、ぱつ変換できる M ちゃんも素敵だなと思った。

試合会場に行き、待機しているとき周りの試合を見ていると、全然、大丈夫だなと思った。

試合が始まり、先鋒のメンがいい時にいっていると、先生がパンパンとよく聞こえる拍手をしていた。それにつられるように私は拍手をした。拍手をすることは、大きなことだと実感した。相手チームといえば“おお！”や、“いいとこー”と言っているのを、注意されていて、「ふふん！」と思った。

試合は、手足が合わなかったのが悔しいところだけど、あとは繋いで引きゴテも機会はよかった。前半は、自分のペースで出来ていたと思う。最後のメンも、コテに合わせられて

しまったけど思いっきり出られた。あと、私がコテを打たれてしまったときも、味方が拍手をしていてくれていて、よかったと思えた。



最後の、大将 Ochi の相手はその地区の個人優勝した選手だった。Ochi のメンも、出足あって…まるで大阪でやっているときと同じ場面を見ているような感じがしました。Ochi は、「あれは勝てたよ…！勝てる気がした…」と話していた。

みんな、よかった。スカッと出来た。

そして、先輩たちと会うと“ちょっと素敵な仲間たち”の空気が出ていて見ているだけで癒された。

外で芝生の上で…青空の下…みんなでご飯を食べながら話していた。



先輩方は、“先生と剣道をやっていたら怖いものなんてなくなるよね。レポートなんて、すぐに書けちゃうしスピーチもすぐにできる。”と言っていた。それは、私もいつも思うことだ。あとは、大学生活の話や高校剣道部の思い出話…。先輩方は、溢れるように出来事が出てきて楽しそうにな話していた。聞いているだけで、幸せな気分になってくるって凄いパワーを持っているんじゃないかと思った。

最後には“またご飯いこうね！いつでもいつて！”と言ってくれた。

話していて伝わったのは、先輩方が K 先輩のことを心配しているということ…。

“みんな、それぞれ持つべきポジションみたいのがあるからね。自分に向いていることをやればいいんだよ。”と言っていた。

私たちが、“ちょっと素敵な仲間たち”になれたらいいな…と思った。

試合は、「自分なりの宣言」のようにやれてよかった。変わるきっかけを逃さないで、掴

んで自分のものにできている感じがした。「いつもの自分みたいにやりたい！」

平成 26 年度 関東高等学校剣道大会千葉県予選会

5 月 10 日(土)成田市体育館

試合の前日、自分がどんなふうに試合をするかをみんなで言いあった。それは今まで通りのわたしではなくて、大阪遠征で得たものもプラスして今自分ができる一番いい試合をしたいということ。だから面中心にいく「面で一本とりたい！！」とみんなの前でいった。その分「出コテ」とか「返し技」でとられるリスクも十分大きくなるがみんな「それでいいよ」といつてくれた。

試合当日。体調がこのごろよくなかったが、今は咳がちょっとでるだけ。治ってよかった～。

実際に現地に着くといろいろ去年のことが蘇って来てこんなことあったよねーと話が盛り上がる。去年は私たちも制服で来たよね・・・！

防具を会場に忘れて帰りそうになった・・・！

今日は先輩たち三人も来てくれると聞いて嬉しい反面、少し緊張した。

相手は成田。アップを見る。先生がいていたように結構ガツガツくる。プログラムを見ていたら私の相手は地区で優勝している・・・！

相手になるのか？でも・・・大阪よりはきっと大丈夫！

大阪にあって技術的な点で向上しただけではなく、強豪校とも絡んだことで自分に自信がついた。ただ皆が言うように会場の雰囲気が向こうと全然違う。あそこまで自分を最初から上に持っていけられるかが大変だなと思った。

階段で A ちゃんにあって声をかけてもらえた。

「初戦どことあたるの？」と聞かれて

「成田です！」と言うと頑張っってねと言ってくれた。

「ありがとうございます！」と返した。「A ちゃんも頑張ってください！」と気遣いの一言が出てこなかった・・・「緊張していたんだな～」と後々思った。

二階席で試合を見ていたら声をかけられた。髪を切っていたこともあるがすごく大人っぽくなっていて、すぐには後輩だとわからなかった。中 2 からずっと会って話して居なかったから少し壁があるかなあと思っていたが、向こうからいっぱい話してくれて一時間以上話し込んでいた。「すごく大人っぽくなったね～」と言うと「先輩は、全然変わっていませんね～」と返されてしまった・・・。

先生や開会式での会長挨拶でもあったとおりまず今回の試合では距離とタイミングを大切に、やろうとおもった。

なんだか今回は知らずのうちに相当緊張していたのかみんなの試合が見ているのに全然頭に入っってこなかった。PL 学園さんにいただいた次の試合になるし、先輩・後輩に見られて

いるので頭がいっぱいだったかもしれない。

今までの試合を見ていて相手の初太刀はメン見せかけてコテが多かったので予想はできた。大将戦でも実際にそれがきて抜いたが詰まってしまって一本にできなかった。何本か面を打てていても手足がバラバラなのか残心ができていないのかなかなか一本にならない。でもノーガードで打っていているから「これは、引き分け、良ければ勝てるかもー」と思った。が、最終的にはうまくのせられ相面でとられてしまった。真ん中を最後までとりきれなかった。



でも途中先に入られて流れが悪くなったら間合いを詰めたり、これは間に合わないと思ったら捌いたり、以前は無理してでも打っていったのが我慢できるようになったのは大きな成長だ！！

「凄いい！私・・・！」と試合中に思った。

試合中に思えるほど余裕があったのになんで負けちゃうかな～。

でも試合終わった後はみんな、「やりきったよね！」、って感じだった。

先輩たちにも「タイミング、バッチリだったよ！」「Haruちゃんにすごく似てきた！」と言ってもらえて嬉しかった。そのあと先輩たちと外で雑談。先輩たち三人が話しているのを見ると不思議とこっちも楽しくなってくる。北海道研修のことはあのレポートでしか知らなかったのが先輩たちの口から色々実際に聞いたのは良かった。先生と稽古を最後まで続けていたら大学で怖いものなしだよ！・・・レポート、プレゼン、何でもスイスイ・・・と先輩方がみんな言っていたので頑張ろう！と思えた。

別れ際にまた次の大会くるよー、と言ってくれたのもっとレベルアップしていきたい。

平成 26 年 5 月 3 日「剣道研修会」(第 1 日)

初対面で『え、何?』から始まった「剣道研修会」の稽古。

川上先生に挨拶に行くと

「おはようございます。駒崎先生の…」

「ああ！駒崎先生は真面目だから大変でしょ？…どこから来たの？」

「千葉です」と答えると

「遠くから来たなあ〜。あれ？君は？」と話題は A ちゃんに。

「円心塾は駒崎先生のお父さんの道場で、学校は小金ではないんですけど、通わせてもらっています。」と言うと

「駒崎先生のお父さん…塾を開いているの…?!」

「そうかあ〜、塾…？ 道場か…!?」とおっしゃいました。

最後に「頑張ってね」と励ましをしていただきました。

その後、川上徹先生に挨拶にいくと「ああ、よく来たね〜はい、みんなは A ね！怖いかもしれないけど頑張って！」先生は笑顔で返してくれました。厳しい先生だと想像していましたが、思っていた以上に優しい方でした。

試合練習は、前半は気持ち的には良かったと思っていたのですが、合わせていけませんでした。学園さんの試合を観ていると少し分かったような気がして、二巡目の初めの試合では、出鼻メンと出鼻コテを打ち、途中面を一本打たれてしまいましたが、この試合だけ、4-1 にできました。



その後の日大戦でも一本打つことができました。

昼に入る前には、同期の試合が残ってしまって、それを周りが見ていなかったことに對して、川上徹先生が「それぞれ、みんないい技を持っているのだから、観て勉強しないと。

最近の高校生たちは、見とり稽古をあまりしていないからね」と指導がありました。

その時に、川上徹先生が「O さん、面を取っていいよ」と語りかけました…些細なことで

すが同期が名前を呼ばれて・・・「いいなっ！・・・」って嬉しく思いました。

午後は、講義&基礎稽古。稽古前のお話は、

「性格」と「超一流と二流、三流」のお話がありました。

「性格を変えようじゃなくて考え方を変えよう。」というお話や『『大人をなめちゃいけない。学校の先生の話を書かない人は、剣道なっても話を聞かないし、強くはなれない。』』というような話。

「二流から一流になるときは、タメ口で答えるような人が多い。けれど、一流から超一流のひとは、誰にでも敬語で話す。この例えはヤンキースのマー君」というような話もありました。

その後は列になって素振り。

前に出て号令をかけた A くんに合わせてられなかったときには、

「すぐに反応してやないと！」と言われました。

「この研修会で、自分で考えに考えろ！そして、自分で行動しろ！」

講義のなかでは、面うちの川上流の様々な細かい説明がありました。

初めは、川上先生のお弟子さん（小学生）が手本となり、足をつがない面うちについて。

何回も何パターンも面を繰り返しやりました。



切り返しを、一人二回やって面つけ。

全ての面つけで一番に面着けをしようと思っていました。そして、面を付けた後も、学園の人と組ませてもらいました。

その後、休憩が入り、地稽古。

面は 10 番前後くらいには着けられたと思うのですが、男子に押され負けました。

地稽古では、試合の時より自分らしくできました。

日大の選手さんには面を思いっきり決めることができました。それを見ていた他校の人が「お願いします！」と来ていただいて嬉しかったです。

佐賀先生のお話。

「素振りを毎日 10 本やれば一年で 3650 本。嫌だとか辞めたいとか思うときもあるとは思いますが、日々の積み重ねが大切だ。ここに来ているみんなだからこそ、話をしている。頑

張ってほしい。君たちは剣道界の希望だから」

「君達が一番話を聞かなきゃいけないのは自分の先生。もし、僕の言うことと、自分の先生の言うことが違っていたら、自分の先生の言うことを、聞くんだ。あくまでも、参考にしてください。」というお話がありました。

そして、最後に「ここには落ちこぼれている人なんていない。自信をもって」とおっしゃっていただきました。

明日も、握めた感じを忘れないで積極的にいきたい。

平成 26 年 5 月 4 日「剣道研修会」(2 日目)



朝、整列して素振りをした。昨日注意された通りに自分の体調を確認するように。昨日の稽古の影響か腕の根元あたりが筋肉痛になっていた。

はじめにまず試合稽古。

“構え合っているんじゃない！打ち込みの練習がここに生きる”

“中心をとっているだけじゃだめ。打つために中心をとっているんだから打たないと意味がない”

“打とうという気持ちは伝わってきたけど相手のことを全然みてない”

松本の試合をみていたら何がいいのかはわかるが、自分の試合だとわからなくなる。一つのことにかかれて他のことが見えなくなってしまうこともよくあるので改めないといけないと思った。

午前中は、ずっと同期の O さんと交互に連続で試合を 15 試合させていただいた・・・。

強豪相手なので、もの凄く集中できていて・・・お昼休憩になった瞬間に・・・

「午後をもたないんじゃないか・・・」と思うぐらい身体的疲れがでていた。

しかし、気持ちは充実していたし、試合に出場できない友人の分の事を思うと「ありがたい」と思った。

午後の稽古は川上先生の講義から始まった。

「防具の大切さ、一流に触れてもらいたい・・・。お金を出してくれている親に感謝すること・・・」など。

それから安藤先生の指揮で素振りをした。面をはやく振れるのは発声と左足のひきつけ。安藤先生が実際にお見本として数本素振りをみせてもらったがほんとうに凄かった。力強くて風をきる音も遠くからでもはっきり聞こえるのに力んでなく大きくのびのびとやって

いて綺麗だった。さすがにあんな風にはできなくてもイメージとして考えながら素振りに取り組んだ。

そのあと、川上先生が中心になって追い込み練習をした。これも昨日のように段階ずつふんでやっていく。なかなか足と手が合わなかったが前の人たちをみてテンポを掴み、そのリズムで足を踏み込んだら自然と手がついてきたのでよかった。

最後の地稽古では安藤先生に懸りにいった。全部で 30 秒ほどだった。ちゃんとしっかり構えた後から狙って面を打っていった。最後の面では「おお！すごい！」と言ってもらえてすごく嬉しかった。全日本を三回も優勝した先生と稽古ができたなんて・・と思うと感動する。

明日で最終日だがもう全部を出し切りたい。初日に川上先生が言っていた周りから変わったねと言われるように。

平成 26 年 5 月 5 日「剣道研修会」(3 日目)

6 時起床。起きた時今日は足も筋肉痛になっていて全身動かすたび痛かった。今日で合宿も最終日。いま自分ができることを一生懸命やろうと思った。

もうすっかり見慣れた運転手さんが今朝も会場へ送ってくれた。昨日はわざわざ色んなところを通ってもらって少し大阪を観光した気分になった。親や運転手さんも含めた周りの人の助けがあってこの合宿に参加できているので、それこそ無駄金といわれたら悔しいので頑張ろうと思った。

2 日間、覚えたことを先生のおっしゃる“一事が万事”になるように。言われた時は、反応する、先に先に意識しようと朝から思っていました。

朝食も、食堂のお母さんがたも明るく“おはようございます～…ご馳走さまでした…ありがとうございます”というのが、ありがたくて…美味しくて。

体育館につくと、学園の人達はすでに胴垂れをつけ待っていた。

あの場にいた人達は、準備運動までできぱきしてしていました。

試合練習では、相手の先をとりそこから入りかたを工夫し、間合いを意識しました。

試合をしてから基本練習、そのあと地稽古と最初きいていたので

「私たちは 12 時上がりなので地稽古までは居られない・・・」と思っていたが・・・先に地稽古となった。川上有光先生にかかりにいった。面の打ち込み稽古だったが時々先生も一緒に面に出て打っていった。先生も打ちにきたとき、最初は面にさわることも出来なかったがやっていくうちに少しずつ早さになれていって同時とまではいかなくても相面に近い状態までいった。このだんだん追いつけるようになっていけるのが楽しかった。

今日は私が男子と間違えられてしまって・・・男子に「お願いします！」されてしまった・・・。三日間は「あっ！」という間で自分の想像していたものよりも充実していて内容の濃い時間を過ごせた。昨日の先生の言っていることはまだ自分のなかであやふやな感覚で・・・これでもいいのか全然わからなかった。でも今回の試合で最終日にして初めて私に旗が上がった。

これで今やってきたことは正しかったと自分のなかで理解できたし感覚も試合をするたびになんとかわかってきた。一日目の試合よりも断然と良くなっていることがわかった。同期の友人もメンを何本かうっていて、後から新幹線のなかで「なんで、私打てたんだろう」と、不思議がっていました。

また、自分の中の価値観や物差しでは通用しない世界で稽古したことで考え方を改め直すいい機会になった。

ここでできたことをこのまま手放さずに自分のものにしていけたら合宿にいった意味があると思う。10日の関東大会予選の成田線に向けて頑張りたい。

そして、川上先生にお礼の挨拶に行くと

「先生が『また来年も来る』って言っていたよ・・・。」

とおっしゃっていただきました。

「来ていいよ・・・」ということだと解釈して嬉しく思います。



春季北部大会

4月29日（祝・火）9：00 沼南体育館

朝の集合時間は自分たちで決める・・・。

昨年度はバスに乗りきれず残されてしまって遅刻寸前状態だった。

集合場所には二人がすでに待っていた。私からすると、少し意外な二人だ。先輩は先に行き、バス乗り場で並んでいてくれた。ここは、去年の反省を生かした。その後を続けて、初心者ちゃんが登場。「20分前くらいには着いていたんですけど・・・」

また、おもしろい子が入部してきたなと思った。そして、最後に大将がやってくる。

バス乗り場には防具を持った集団が、列をなしていた。こうゆう光景を見るといちいち去年を思い出す。「あのころは、どんな思いでここに並んでいたのだろう・・・」

会場に着くと男子と合流して受付を済ます。柔道場で着替えている時に私は昨晚ギリギリになって用意した小金の垂を、初心者ちゃんの垂に縫い付けていた。前日準備に気づいていないといけなかったことだ。私の時は先輩が前日に用意してくれていたのに・・・。

男子からパンフレットを受け取り、相手を確認。持ち上がりで一回戦なしなので、どちらかが相手になる試合を見ることにした。

柔道場ではそれぞれ、柔軟をしたりパンフレットを見たりと過ごしていた。

開会式ではステージの真ん中に三輪先生が座っていた。

大会会長の話では、「勝った、負けただけではなく、諸先輩方が築いてきたものを思っ、試合に臨んでほしい」というような話があった。そして、大会会長の話にも出てきた、大会の成り立ちがパンフレットの2ページ目に書いてあった。そこには、私たちが先生から直接聞いた話を書いてあった。「千葉県の強豪校であった、市立習志野高校と市立船橋高校を～」これが、駒崎先生と所先生のことだと思えば、歴史の当時に直接触れているような感じがした。

試合は8試合目。県立柏と東洋大東邦の試合が4試合目にあり、そこで相手を見た。相手は、東洋大東邦に決まった。その試合を見たときに、みんな変に考えてしまったのか、よくしゃべった。試合場に降りると、凜ちゃんがやけに緊張してしまっていた。会場に着くや否や面をつけて待機していた。会場はやけに暑くて空気も苦しく、混み合っているのが嫌だったので、フロアにでたりしながら、試合は前回の反省は、繰り返さないようにしようと考えていた。

前の試合が終わり整列。このときに「5人で並べてよかった」と改めて思った。

先鋒はたった一人の先輩。このオーダーでの試合は初めてだ。先輩は足があまり動かしていないようだった。構えて向き合おうとしていた。そこからのメンはいい機会のものもあったと思ったが、受けられてしまっていた。相手は待っていて先輩が出たところを合わ

せられてしまった。



次鋒は、今日デビューの一年生。思うと、彼女の地稽古を客観的に見たことはあまりなかったかもしれない。でも、彼女も構えて・・・仕掛けて・・・とまだ慣れていない戦法で、自分なりにやっていた。思いつきの良さが出ていたと思う。メンも惜しいのがあったけれど、打った後の抜けや姿勢が1本にはならなかったのかもしれない。

中堅。前の2人が2本負けしてしまった時点で、後の3人1本勝ちで勝てると考えていました。これは、「勝ちたい！勝ちたい！」という前回の気持とは、少し感覚が違いました。構えると、相手はタイミングを見るような動きで、構えが強いとは感じなかった。タイミングに乗って、メンに出てきたので返せた。相手の打ちがスローで見えた。これは、摺り足剣道の成果でもあると思う。その1本取った後は、取ろうとではなく集中して余裕を持ってできたと思う。でも、後から同期生二人に「後半、焦ってた？」と聞かれてしまった。



副将の Tonn ちゃん。蹲踞から立って構えた時には、構えや相手のメンを見て「得意の返し技でいけるかな」と思った。でも、相手も摺り上げメンは警戒していて、うまくいっていない感じがした。反則を取られてしまった後からは、だんだん焦りが見えてきて、2回目の

反則を取られた後は、もう Tonn ちゃんが Tonn ちゃんではなくなっていた。



最後に大将。試合自体はすでに負けてしまっていたけど、大将にはかっこよく終わってほしかった。構えて相手と向かっている姿は、かなりかっこよかった。バタバタなんてしないし、ずっと立っている。中盤、先生にも、私にも打ったメンを決めた。打った後は、竹刀が手から離れてしまっていたのに、赤旗がバッと上がった。みんな、一斉に拍手した。

試合後、整列した時に大将は不満そうな顔をしていたが、大将は少し自分に納得いっていないようだった。そうゆうところを見ると、やはり強いなと思った。

着替えている時に、初めて剣道の大会に来て、補欠の席に座った初心者ちゃんは目を輝かせて「大将先輩、かっこよかったです!」と言っていた。私も、嬉しかった。

結果は、すっきりしなくて悔しいけど、初心者ちゃんのあの顔を見て、何か収穫はあったと思う。これから、続く遠征や大会で、スキルアップできるように、気持ち的に落とさないようにしていきたいと思う。

平成26年度 関東高等学校剣道大会千葉県第11地区個人予選会

平成26年4月19日(土)

今日は流山高校体育館で関東大会個人予選がありました。

去年のこの時期はまだ剣道部に入っていなかったため、流山高校に行くのも初めてでした。集合時間がわからなかったため8時すぎに高校に着くようにしましたが、ちょうどいい時間につけたので良かったです。

昨日の夢には、先生に“近間で勝負をするな”とついこの間言われたことが出てきました。試合前日に剣道の夢を見たのは初めてで、自分でもかなり意識しているのだなと思いました。

アップの時間に今日のトーナメント表を渡され、それを軽く確認してから開会式を迎えました。他校のアップを見ていると意外にも初心者や新入生が既にこの大会に出場していて驚きました。開会式では“時”について凄くいい話をされていたと思いますが、うまく聞き取ることができませんでした。残念です。

一番初めに試合があったのはたった一人先輩でした。隣のコートだったのでしっかりと見ていたわけではなかったのですが、今まで先輩の出小手は見たことがなかったのですごく印象的でした。

その後の同期の落合さんの試合は少しゴタゴタとしていて出小手も狙われていたように見えてハラハラしました。結局4分間では勝負がつかず、そのまま延長戦に入りました。延長戦も同じような感じで進んでいましたが途中で落合が打っていった際の勢い竹刀を落としてしまいました。いよいよ危ないかもなんて思っていたら試合再開された途端に得意のノーガード面が炸裂して「おお！」と声が上がりました。



同級生の一回戦目の相手は初心者で、冷静に擦り上げ面二本決めていました。

私の相手は西武台千葉の寺本さんで、身長は高い方で駒崎先生ぐらいだったと思います。はじめの方に引き小手を打って決まったと自分では思っていたのですが審判だれも旗をあげた様子はありませんでした。試合は基本相手の技をさばいて返し技を狙おうと思っていたのですが、身長差と勢いもありうまく決めることができず、返し技はダメかなと思ってしまいました。

落ち着いてもっとタイミングを探ればよかったのに焦ってしまい、それからは面を打って

いってしまいました。鏝競合いでは相手の押しに疲れて耐えられなくなり、途中からはそそくさと引いてしまいがちになりました。最後は延長戦で先生にもよくやられてしまう小手面をもらってしまいました。

片田先輩の二回戦は流山の人とでしたが、相手に一方的にやられるのではなく、しっかりとした剣道で堂々と渡り合っていてかっこよかったです。いつもは突っ込みがちになってしまっている面も何本かは綺麗な面が出ていました。



落合の二回戦目は上段の選手でした。相手のメンが早くて竹刀が全く見えていないのかノーガードで面を開始早々三回連続でくらい浴びて「メンあり！」と一本と入れられてしまいました。でもそこから一方的にはならず、面や小手意外にも返し面も打つようになりました。鏝競り合いが非常にやりづらそうでした。結局そのまま時間が来て負けてしまいました。はじめこそはやられがちでしたがそこから立て直して後はいい試合だったと思います。松本の二試合目が始まったのが落合の試合の最中だったのではじめの方は見ることはできませんでしたが、二回戦のレベルとは思えないほど凄く白熱した試合になりました。後から確認しておよそ三十分間試合やっていたことがわかったときは衝撃的でした。延長戦の途中で休憩を挟むところを初めてみました。そして、休憩を挟んでも全く途切れない集中力もただただすごいとは思えませんでした。松本が引き面を決めたときは思わず「拍手」が起きました。



松本の三回戦の相手は正直二回戦目の流山高校の人ほどではないと思いました。面も流山の人の方が早かったと思い、勝てるのではないかと考えていました。なので、出小手取られたときはちょっとショックでした。後から先生が「『油断大敵』を学んだな・・・」と言っ

ていて二試合目でギリギリまで集中していたからこそ空回りしてしまったんだとわかりました。そう考えると自分の試合も松本のように凄いものでは決してないが、「もしかしたら……いけるかも……？」なんて心のどこかで思っていたから小手面なんかもらってしまったのかなと思います。

今日は自分だけあまりいい試合ができず悔しいです。後一ヶ月、たった一ヶ月しかないですが一日一日を大切に、先輩の最後の大会には絶対に悔いの残さない、残させない試合をしたいです。